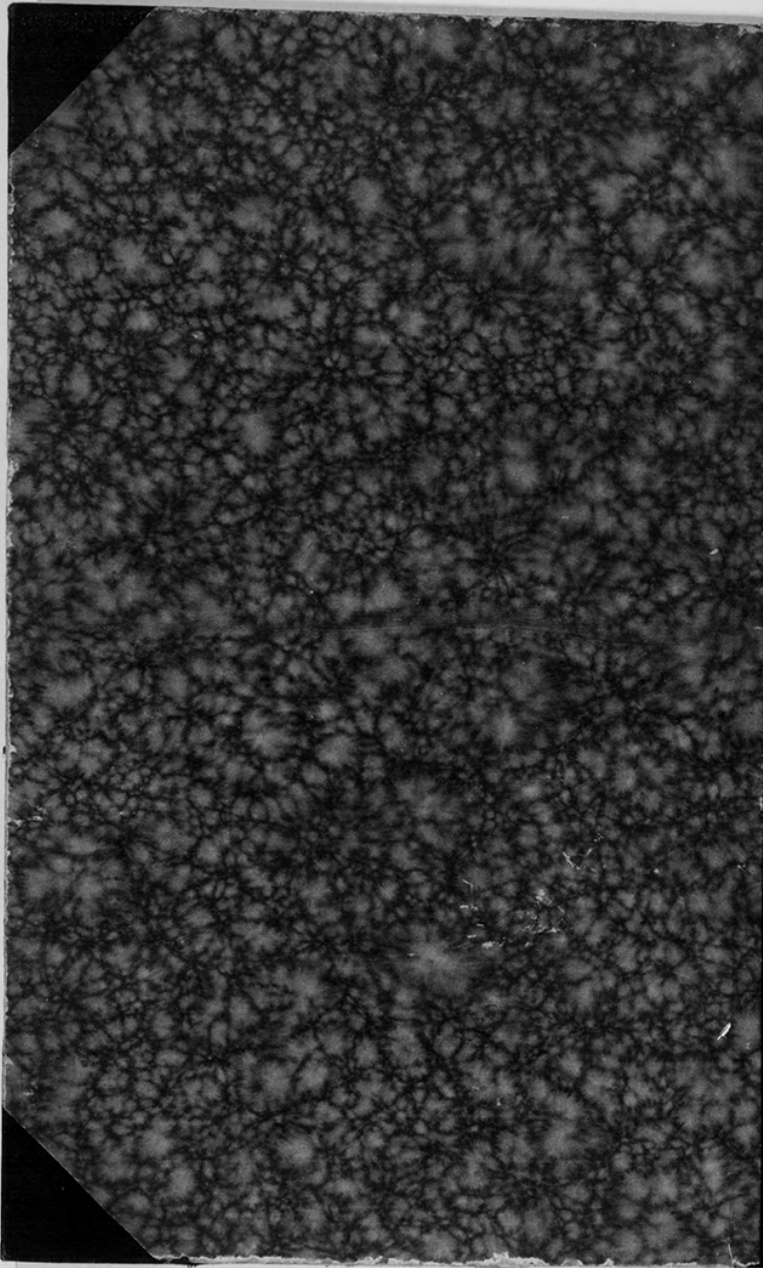


近世・近代社会経済資料（古文書）デジタルアーカイブについて

- (1) このデジタルアーカイブは、東京大学経済学図書館が所蔵する近世・近代社会経済資料のうち、古文書類について順次デジタル化をすすめているものです。
- (2) このデジタルアーカイブの利用に際しては「[東京大学経済学図書館電子資料利用規則](#)」に同意したものとみなされます。
- (3) 印刷物など他媒体への使用については、東京大学経済学図書館までお問合せください。
- (4) 画像は白黒です。文書原本の朱書や裏書、端裏書、裏継目印、前欠・中欠・後欠の部分、丁間に挿入された文書や脱落した付箋については、画像内に「朱書」「裏書」「端裏書」「裏継目印」「前欠」「中欠」「後欠」「挿入文書」「脱落付箋」などの置き札を写し込んであります。また、原本が破損し撮影が不可能な場合や、白紙が何枚も続く場合には、「以下破損につき撮影不能」、「以下〇丁白紙につき撮影省略」などのターゲットで明示してあります。
- (5) 画像の撮影には文字が視認できるよう十分な注意を払っていますが、資料の欠損、変色、褪色等の劣化や、ノド部分の状態によっては、原本の文字が全て写っていないものがあります。これらについては資料の原形を保ちつつ、出来る限りの範囲で撮影したものとして了解下さい。写りの悪い文書については、東京大学経済学部資料室にて、所定の手続きにより原本の閲覧をお願いします。
- (6) 文字間のコントラストの差が大きなものについては、視認性を高めるために、照明を調整して複数回撮影しています。この場合は、同一の丁の画像が複数枚連続して表示されます。
- (7) 本アーカイブに関する質問等については、東京大学経済学部資料室までお問い合わせ下さい。
- (8) 本デジタルアーカイブの一部は、独立行政法人日本学術振興会平成 25 年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）課題番号 258061 の交付を受けて作成しています。



經濟學部 研究室
5
1621

禮
下

喜多村七代壽富編述

碧助筆

家訓永續記

知方家業相學其方

心之真意可相立



41215

壹 目錄

- 一 御法度大切可守事
- 一 子と月方之事
- 一 年習学問二教事
- 一 家業可学事
- 一 真意立方事
- 一 業外三惑間補事

- 一 我父の教受事
- 一 諸人稽古事
- 一 家續く術心得事
- 一 家職肝要たる事
- 一 金銀世界寶附梅の身事
- 一 店節勘定事
- 一 市武家様心收納事

- 一 身上保方事
- 一 家起立心得附仁人教の事
- 一 我家形没至者不増亦少く事
- 一 老人切能味有事
- 一 人間一生一跡食役事
- 一 福の芳を多し有事
- 一 坐坐其母の乳を可育増補事

一 御高札之表

自叙

丈夫の性其初皆善なるを以て成
長し随私欲し抑ふべき惡に深其本性の
善以失ふ者と聞及べ初少く教導し其
肝要なるを抑我家の先祖以來世々和子綿
同一家業を一心和之渡せしとて連綿相
續今不及一里是全先祖累代の恩徳並有

事なむともや但代々の内を人々業幹
怠其父上るを讓受たる所負補せりたる
所方なく代毎に追々積増同出度事少く
子孫く小至柳たり其減少をも看る人
祇に當代々の心骨に對甚忠公小付家凡
徳を證授を能く思顧永後之事信守
厚し我の若年なる家職を専ら心成

用學問の道に勤ることも積年の功を
思ふといへば子孫に教傳へべき事なきにあらず
依今父祖の遺言及び見聞するをたつて
是れ其の終に書録是と名附る家記永
續記と言我が子孫に書と讀其公年の
拙と不笑唯我教諭之意と用る
忽よ其へかへ

子や涼乃未此代子その心得也
付いたる記等よ書残し候

喜多村壽富誌

安政元寅年

一 御公儀様御法度之儀一同忠相守事
分一也依子孫に平習為政に初御言
札之表為相習御從に不月札為心得
とせ可申事

一 子を養ふ其母の乳少く云月事行置也
若くはたふ初乳母兼侍母不召抱之時ハ
貞實少く思ふと云成撰抱公札改へ

尚又平習学問未純有古及之れ以時為至ハ
之代共之口随分篤実之者相撰附置
原一水ハ方角の盡し随人の善惡の交
よ依の新心附必惡交友ふ交之がた
成人ふ随ひ不得よなるた多く友の惡
しきより起故は辰親子共心得專要
と事

一 手習学問十歳後盤ハ知少より能師道と
撰教之申事親の後有柳沖あり有る
ハがと是其身一生に賢なる知ると時
大切業也学問も未熟なる諸人の
中成差を待てる生徒恥辱多し初
年ハ口出精て学事

一 十五歳よりハ諸々家業相学お續く

規矩心得の故是行要に付後世に道は
専差入り可申事

一 流るる氣性も随ひ心の真一筋立との也
高人の貧富も都る日々稼の利潤も
法計改者なきは分一も我ら家業の道
知る意得たるは其一方に真實相立の根
親の教諭行要に後る事

一 良枝も成るも木は其幹一筋も石も心も
猶如形我後世に一筋も其心とる時を
大成をへし他事に心向へ猶も木の枝葉
葉へく幹大いなる如く別る程奇
能諧其將茶葉の湯又音曲もよ心成
葉とる所の家業も妨とる程一得樂
の真車の真扇の要と言新も心附る

か辛抱と申所行案の事也

一我知ある父の作と慕ふ事他かく
家業の道は一は貫永續之心得と守る
事深く教と受たてしむる事十二歳より
後世に道小差入り生涯福不難高賣
一箱小有意と立昼夜も其志一付
なく當今七十歳迄は悔意場所なき

延引波少と我知と顧時此日の事今日
もや後悔なき事何れも依と何事も生
秘習古と申者也然るを己高賣切者あり
派練向うと思ふ心出る最早仕換ゆる
其生と知る處

一秘習古波事諸高賣諸庶公諸職人物思
深習時名人と成かなくとも可也是中

一 其中より専ら一藝を励む者少くも
在る多し言ひ下りたる者多しよりそ諸々
専ら一業に家業知らず深く熟練し其
一方の身と入生涯渡世し道小者とな
るに私心を才一也

一 家續む術は親孝行と才一と一 家内
和合も代共進心一段少くそ他家の宗業

成り善く先祖傳ふに渡世一節も誠
有ると立身と治え家と學を之無取
しよ心の怠りかく其道よ名を海り相
勵む事より外はなし

一 諸商賣共習見る時其示るる訣
一 應の渡世柄扱振心得しよ一と道よ
行心跡を之を得かす一 蘇公事ハ丈夫

作道有りて深く習時ハ作道傳ふ
金銀ふや其車本より作傳なく我一
心く苦辛より其苦辛より利是
仁義の道と放とる也高車建深く
利欲よぬ事の時ハ未々衰微と基や危
角高利をむさほふも高高とへらさ
其利たり其性々繁昌と心掛質

素侯約と旨と聊我奢心とる家
と治る事足家を保門の根本也我言
ふ所も眼前富とるもの御ふ非と子
孫永續と基とる自ら其道より入
りて少くも富有と成はの術めと

一金銀ハ世界一統誰我嗜欲するのゆへ
容易と得かゝる事ハ之述むるを物と

得人との事申く大伴あるを俗も云
梅の本身と楠木身とと事申在梅を
一子と云ふ多く伸るなりと大木なり楠は
柳花持ち多くも大木と成る餘も云
と云事や彼の吝嗇なりを高利貸
或は相場帳合商い出出成なりと云ハ
富は富りたる振ある不時の仕合なり

慈悲情愛もなく利欲とむきほりたる
竹ゆ俄に富を得たり然るに懐入寢ハ
又懐て物習是を梅の本身と云ふ云
厚きう一旦盛なる其不善と積家小
ハ有餘缺とく長く保事云是建能
々吝嗇と候約との差別と赤利と得
中にも思利と求る事あり是取謂楠

本身と十銭をかりしは後

一商人身と日々入用高築考し支費
の稼較りも大晦日店即ち初年中貸
出たり不都る除帳出する時ハ借戻り
よなきりのや但店即ち勘定殖金有共
其半を伸金心得る一又不足後時ハ
其倍減すると算計せらる一扱又儲

と暮方入用少くも為位の見込るる
店即ち初大不足成況しを前席分
不足の見込あるハ御形跡なく早々
改革せらる一遊居ハ甚不宣事なり
店即ち勘定ハ後元立照し合ふハ兼法
篤と心入後ハぬり少し入組ハ率を
下比の雛形ハ習春込とハる色面倒

小くなく以て法も定むる者も
身と殖す事進み不行儀事と爲す

一 御武家の定禄と守暮一付其高
人の利潤と法計及者故律儀も守
居進む縁方歎く是は自然度爲り
積りたる縁け殖へ走へ公爲るに時
申新なるに盛成身と爲る若菜の

心争時減亡し初ると智へ満す
虧るの道理も其中小満と爲
遅く傾へ早一慎極一

一 相應し商人身と保つ物も如く不
思せ外も容易に善悪思定かき
者也其内は柳の如く合ふと上下
は等一ヶ半も金百兩は殖すと爲ると

の邊より十七年十一月の伸方或は兩の
増減方大方没落する者之は累法
盤ハ元金百より五拾兩増を一割伸と
し以て九下九元高る拾兩減ハ一割下
を算し尚又十年同増方ハ百又拾兩より
減り方ハ五拾兩是半金三成十年増
方或は兩減方消る右累法ハ常此

高事ハ專入用之廉也篤之心得
居處一

一家を興起するハ小人殺る能御也
収納多く雜費おくる振る事勿論
なりと我家之業ハ仕多く初年より
子之月少解多抱立仕之故今ハ諸店共
間入合ハ者少且之れハ多ク又殺中下

用之ハ教なきニシテ切結ク人歟
痛氣又ハ不得人ナク仰々我
侯中々権ヲ振ラズ主ノ威光ト爲ク
なるニ家政治リカ

一 我家店終リ人交死人ハ相成たる者ト
勿論一匹ノ席ヨカリク不奉公仕志曾而
なく頭役者不得有ハ其家ニ恥

辱たるハ一匹ノ人自院行要ト事也

一 凡人生ハ辛取ヲ随ヒ萬事巧者成
者也兎角云事ト守ハ老人ト云ク心
且老たると身體達者たるハ樂と好
隠居杯也ハ天道ニ對シ爲ス也
生涯重荷ト負フて居ル心得ト根
氣の續くハ相勸中

一人間命有内と衣食住の之を欠くは
我身計なく附屬一統を以てしむる
ありとも爰と必一日たりた稼ぐて可いぬ
事や今日を儲ちて進喰をふら
まは是油断をぐき深なるはや
孟子よ人を治る者心を治る人よ治る
らる者ハカを治る者と何とて貴賤交

易なり其外天下事は皆彼と是を
交易は則農は食物と作し一五を
蓋物を製修よりと方を高は財を
通し物と賣世の便利とあり心と方
は各業と異よを心は方とを
方とは何と徒よ把居事はなぬ道
理也人間のみなも身歎そも廻り

走とり食を稼がるといふ忽飢ふ及へし
道理と能く相辨我持前の業と一
業守仰も怠るからん冒山人程奇
世と捨て山は住とも米と味増

酒の通ひ路ある可し

一 福の身と芳きより事福を樂より
起る丈家と起ると欲者ハ根氣

強く其道小芳を履一逸樂は氣
多ハ物事成就不後事之終骨折厭
乃ん女事但生涯働死ハはまらぬ事
思ふ事一さる河さる事ともさる河さる骨
折る事さる河さる事ともさる河さる骨
ハ幾分小宗却る骨折がたのみよた利
先祖分受継事身と法一果も疾らぬ

進々進々家族睦補能承承生るに思ふ
人生是よ過たる樂か——豈他の能
能遊具の及不ふらんや亦竟味ある味々
其身よ誠老て存我言の不欺と爲
——諺よ伸樂と云語よ心附へ——

前を子出生育方と事とを御方
以増補は下ふた

子生るは其母を以て其母を以て
成父母の乳を以て育る——高貴
御方承富有的者必乳母を以て
以得る天か無賜を以て乳を以て他
乳を以て育る天道よ宵の道理之を
予竟る母たる者我乳と爲るも
夜も思候はは夜りと云ふ又不用の

汚と文甚辛苦ありとの及全様急か
起乳母と抱るる里とて其辛苦
丹精とて所よ母子骨肉の結合深
き意味あり既 白川源公の道理と
能く申辨は爲す乳母の乳を育
る天道に對し勿折なく且其小児の
不ありとて其出生くなく奥方様

此丈夫此處又あり方必御自身の此
乳も此育は爲遊り有但世間乳村
とて小児初く乳とらふる必他人
の乳とのまじり得共醫圖書よ母の乳
物とていふとすとて然る新乳を
不食杯とせしむる母の乳と其子り
無事ハ却る其よありとの事と其新

乳の内よ、胎毒拂く血毒拂く夫れ
調合し〜何とハ別よま〜利根と唱
茶を煮るハ不爲の説ハ凡賤姓〜
子生て乳の當ハ人君のま〜何とハ鳥
歎述ト曰私を是天道の造工物と
生有する道理之然と他人の乳少
有るハ勿稱なき決然と云依る乳
不足ハ不収ハ外乳母ハ古抱ハる女
若古抱る而ハハ眞実なる愚ハる
ざる者と撰て古抱ハる後也

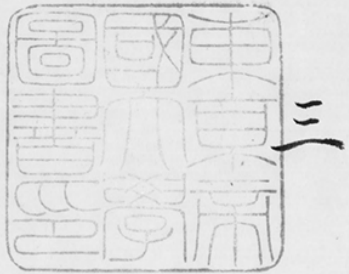
途中 4 丁白紙につき

撮影省略

禮平 壽富直筆

家訓永續記

孝心之事



三

三 目錄

- 一 父公親族和合教事
- 一 孝行之原々在
- 一 小兒仕附方事
- 一 老父母有与身上改革事
- 一 父代々増進者心得事

附身上其代々所先祖不立物
至長可心得原

- 一 親しいと見下す時の事
- 一 主親を事不曲振て侍事
- 一 嫁姑可心得事
- 一 父上画像に記文章事
- 一 我画像に右回断事
- 一 我意丑箇條註事

一 父上と仕作置事家を行むる不親子
 兄弟夫婦睦補家心相合す一なる
 御歴々言只親族常々隔ちらばし又
 不和故に只稀なるはし下々一祈て姑息
 四心骨肉の情合に至る貴人今有る者
 中事たる事と又心易きと中事思ふ事と
 世をよめる人々禮義を失以終末孝の

情起るの如し、可憐事や

増補曰

伯初孝不孝を以て、行未回宗祚に望
心苦愛忘の如く、親死後至孝を為す
後悔する者や、其證、其身父子睦者
の如し、る者たり、世間至孝心なる
者在、即獲災、以裁及たる行悖を

義の如き、不可言なり、愚痴なる事、ハ
思ふまじく、齋持の事と感て、一終を
天性安心親を懼ると思ふ者、直に
孝意心易し、之の我、從分終、不孝の
心、發起る如し、之を顧、悽念、聖人
孝の直行の本と仰ら、たるは、親に不孝
する心、少く、何事、孝行、在、不申、又、其

象雖蒙冒せぬ道阻あり俗子を持て
親の恩を知して言通親の子を
思ふ程深切に俯りおさめぬ
子たる者其親の心を我心として
孝行をさすな天孝なり人又其位
たる者の忠不忠も同じく阻や是ハ
他人と義裁を合ぬる主人の位

自然と忠孝不忠不孝と主人の
先深切を能く石位のおもふ
忠を以て時主人のおもふ子の孝を
して親の心は忠と同く是程
志を事おのの意味合はれ
一 其身孝行をれを其子又を見習又
孝人の成り自然親子夫婦兄弟

口論杯波と云又其子夫を以て習知卒も
 之志を生く其業の任二憚因縁成者や
 善事の日々教る其学の以て思ふ事
 其見習其方とて故外知思付者や
 信く其子不孝成親の教と云る者
 一 其身不孝と云我子の孝行を貴た
 子子服世は信與人たる者親は孝行
 兄才を親とて夫婦贈与人偏道と云
 子に教教邪に入と云く子孫長久の家
 政忘るる所は其身心黙宣時存云親族
 之心思人有其善人化と云るものや併し
 下思ふ移らば其世は為麻者と云思ふ
 分別たると子に足教道守る好む何らされ
 親の見切行要候

一 子に親に孝行を親は子に慈愛の人情
厚く不致る家法不申情を養子操
別る操は相成りて其心と深からば
今もぬ事既大學にも性獨そ深を
情を先とて身孝向のみ如く操
其同心実情なくして可く向ふと
忽其車の廻るおとく人の事と曰ふ

己の身の事成る早しは良深者我身を
思ひ子孫を思ひ去る不実し不細
心然所成たる事知るを
一 父母の孝行を以て命を道徳の大を天地の
間を生かざるは我が命を道徳の大を
命を天の命を以て親を貴んたる也
孫に其徳を養ふは之の命を以て又親を

世貞又たる元字為貞教を縁備さる
得る事や物を其根本たる親孝行
教に由り成るるを等閑心得不孝也
人面熱心とて人乃の伴るも可也や親の
子と有てしる其辛苦いふ事や聖賢の
教に教多しと亦成る事無し

一 我の親を敬らざる時其子たる者必敬
向備高子とせざる時不和成り極む
事有る者や物と老たるを敬知を怠る
心なき也

一 仁人知雅が壯年正居親の教を文
成事とて又長者親を早く頌ふ子に
教る人倫の常や然る其親たる者子
教へる道限し取らざる其身才不孝

少らざる相悖二事

増補曰

羞^{ハシ}惡^ク心人皆有之過^ト言^ハ行^ハ通^ラり公^ニ他^ニ行^ハ私^ニ行^ハたる^ハ私^ニ行^ハ者^ニ對^シ盜^ハ劫^ハ不^レ行^ハ彼^レも亦^レや^レ意^ハ可^レ者^ニ也^レ然^レも^レ親^ノ子^ト也^レ公^ニ行^ハ私^ニ行^ハ心^ハ可^レ也^レ然^レも^レ但^シ親^ノ子^ト主^ニ從^ニの^レ也^レ

承^テ之^レ爲^シ使^テ食^ハ飲^ハ少^ク悔^ミざる^ハ也^レ

一 親^ノ子^ト夫婦^ト見^テ才^ト同^ク礼^儀忘^ルる^ハ心^ハ易^ク之^レも^レ可^レ不^レ遠^ク也^レ而^レ事^ハ可^レ也^レ
公^ニ用^シ胃^ニ也^レ而^レ別^ニ爲^シ又^レ可^レ也^レ事^ハ

一 子^ノ孝^行後^ニ之^レ也^レと^レは^レ親^ノ也^レ慈^心也^レ
慈^心也^レと^レは^レ我^ハは^レ孝^行後^ニ之^レ也^レと^レは^レ也^レ
若^シ不^レ然^レと^レは^レ親^ノ道^ヲ失^フる^ハ也^レ

其好風子孫に押移思ふ事や如く
此後お弁へ来々孝行の志を厚お成心
算すありて親孝たりたう生侍のみ
居所を恨事外におき孝なけし親の方
少く心を用心あり

一 孝行を父祖及命之日に勿偏死後
至其相成事子に親を不思は親たる
者子を不思はな

古歌

初はるに鶴あり世の中

子成思ふよき事実なるらん

一 父祖及生之日を其心を慈ひに侍り
是孝之道を油断なく事業お成身
上法保大者心なくして親子以て夫婦

贈愛善公親光病長病のまほしく
不自由致させ及寄心まほしく
心感ゆる唐の正臣孝の中ふ不仕合の
人自身親光時收懐國人を手前
我身を及後みと水の上はは
外と息を得たる其実を云く親光
公外葉事々々々を親光に得たる
品養の建世よるぬ右の孝心の徳を
事と云くは身養を云くは身養を云く
右に云くは身養を云くは身養を云く
例に附添居孝行其明日食物等
方と云くは身養を云くは身養を云く
天之感應よるは身養を云くは身養を云く
死後の孝行何程も云くは身養を云く

事や客身の席も首子林の望
たしとよふな山も其座を
想ふ親の身を我子に
他人をまうるを親の
縁物猶老保小児の
情をなすを

一 老父母の身上不如之相強ゆめ
改革の序たることと
中今迄の事
ある不直事
ならんや改革
身上保根
りとも
事行毎に

日酒を吞費を不厭得の艱難なる事
不攝族ありといふ事なりたる者なり
さしを以て親の事なりといふ事なり
かゝる事あり親を以て因縁と心得れば
係の所ありといふ事なり用はるは
一 父代より子代に承る者なり至有
おぼしめ親に向自慢教ありといふ事なり

事や公卿たり其親なるは倍又なる事
基ありといふ一物なり其己の身體
層親の徳物ありといふ事なり
赤子たりといふ事なり大男は成たりといふ事
親より自慢教を承る事不異人笑ふ事
か増え大男は親を敬ふ事なり
先祖親首事常不忘る事なり

世は至愛なり是れ也か子孫繁昌計一
 心得る而已子孫繁昌之道何と言ひ
 己の勤むるは何れ其家實あるは是
 吾物より世より先祖より代々所存と
 心得るは依る大切相守又後代相傳
 永續後世に以行果也是れ家子代
 其の主人より梨山居士より好む者永く之家
 此返報忠徳の志を忘るるは是れ其
 人の事と思ふ中我家の事也成者能
 一親不宣事何れも不得止事子たる者
 休言よりより而書面より出不用時
 一應相和又々時宜に應に挨拶を親
 言をよみ来らば可憐といふは是れ世
 任初く事より出るは不宣事よみ

一 主人親之しるす後る事勿と不相_レ居
考云は彼をへし主親の之る事な_レ若_レ後
而_レ其心中服_レは_レは_レ身_レ守_レる_レ事
有_レる_レ私_レ入_レ事_レ都_レと_レ出_レ成_レ心_レを_レ才_レ又_レ不
若_レ親_レたる_レ者_レ我_レ信_レ氣_レ德_レ之_レ信_レ有_レる_レ事_レ原
夫_レを_レ身_レ守_レる_レ又_レ我_レ信_レる_レ事_レ

一 世間嫁姑怨角回柄不睦之類多者
少_レを_レ姑_レたる_レ者_レ何_レと_レ爲_レし_レ申_レ解_レる_レ又_レ嫁_レ者
何_レと_レ爲_レし_レ左_レを_レ水_レ柄_レる_レ者_レ思_レ愛_レ者
多_レし_レ其_レ弟_レと_レ病_レを_レ成_レる_レ是_レ者_レ親_レの_レ子_レの
過_レを_レ秘_レの_レ心_レ何_レと_レ嫁_レも_レ又_レ姑_レの_レ過_レを_レ知_レし
且_レ恨_レく_レ其_レ家_レ法_レを_レ合_レと_レ事_レや_レ我_レ老_レ母
男_レ陽_レの_レ氣_レ性_レと_レ道_レ理_レ正_レ補_レ之_レ事_レを
後_レ家_レを_レ守_レ俗_レと_レ爲_レし_レ隨_レ方_レに_レ安_レす_レ方

所也と嫁を不善と言ふ何事哉嫁の元
持取く少く母を後種を身有和と
其御心算たりとを嫁たる者も控別
難有思以姑の孝心夫と人の真心あり
つり起自然一回杖く今思以出た
近有少年と其御心算厚ある事也

一 父の當家才の代に因通称の藤原
初名清波部 法名

機山玄公居士

其画像を記す

一 家君諱の達世通称の藤原當家
六代主人年十七少を我祖父の世に
継直に夜丹籍を抽んと祖先の業を

おしりるる家事の規矩を定先年
四十二東都に別業をひらき初行
九年五十二より歿我其後を能る今
都鄙両店銀業皆成るを皆先君の
御おしりたる事や世々忘却せざる
其影像を画せし事を記し子々
孫々とし御恩徳を知らしむ

佐初の樂しむるなり果てを

思ひ出たはなむとある

孤子 壽富謹書

余影像に題次

一 我知るる父の作を家も里家共々
道を知る遺教は月々の先祖傳の

嘗一節。相守昼夜怠なく都鄙両若
勤行卅十年。先祖の御恩徳を家藏と
弘く六十一歳少く世像を画して永世
心傳したる家訓記録を伴う猶其案の
戒を遺教として子々孫々相守伝初
身とあり事なり

- 一 明日の事、今日為る、明年の用を
今年稼符置る、忠孝之道其中に在
一 稼をくはぬ病人を以て居たり日を送る
者、奢の才と知るべし
一 所捉を大切、相守家業之道知るべし
一 学、小事行要也

- 一 富を為るは、禮儀を忘る事あり
一 飲食を節し、淫濫を慎み、養生の基

骨髄は其身髄一々寶物たるを

心するを何んぞかかふたを徳の

千年の学をたのむもか

時弘化三丙午年十月

喜且村七代目壽富誌

右丑箇條は江左徳置

一昨日の事ハニ条

此條ハ諸事糺入を言も右の

書よるを今日改入を向昨日ハ

根都る物事糺入を成時ハ

一筋未熟たるを家を行る道

愚はなり次第不都合に至る

収納を今年用る振成行賜を果
貧苦に迫る時忠孝も思ふ事
分別もぬ者也先孝行と言親
子兄弟夫婦睦安親老長何ん
多の病不立年久しく好し居るも
不自由指させは親を成す快く
いり也たうへ居るもなを振
成す振成を祈る是孝行
とす一と云振成之時孝心た
親子諸共難儀成へし生孝行と
はふも所心の時孝心たふも
振成也の孝心虚くあり又ハ隠居
死をせし入用域なす思ひを
死を待振るは是不孝の随ハ

是^す過^すへ^りて^は己^の其^の心^をな^らぬ^を家^族
此^の中^に習^ふ前^にと^りて^は己^の心^をな^らぬ^を
己^の事^を遠^くる^を何^の事^か
我^の身^をより^も人^の見^る人^を都^を右^に使^は
何^の事^か其^の心^をな^らぬ^を時^に
孝^の心^を深^くく^も又^も在^らる^者
身^を持^つて^は己^の心^をな^らぬ^を

富^貴を^も其^の恩^を徳^を其^の身^を
家^をを^も親^をを^も使^は杖^を杖^を
任^を任^を是^を別^を忠^を者^を金^をを^も親^を
た^る者^を夫^をを^も損^を樂^をみ^を其^の心^を
其^の心^をを^も若^を不^を持^をて^は其^の心^を
苦^を難^をを^も身^をを^も果^をを^も不^を忘^を不^を者^を
道^をを^も生^を涯^を身^をを^も脩^を事^をを^も其^の心^を

定まらざる様野に事忠孝之道を
其申す事と言ふ

此の如きは学を以て

教を忠信の心とする

一 録を以てて

此録商人の録書に身分を昼夜

家業之道に忘れず遠國の録の

者至るに其心を主店に居るものと

少許油の如く用いたるに御書

又その他に其業を御志す事なく

録を一日に全きもの宛てあり用は

身上の事をもたざる宛録にせし

るもの宛て一日に御書に百文あり

並に其録がありしを食済む時を

千五百十三年に創り、豊後追分
左様、多岐之進、行次、の存心、心附
へり、忠、所、武、家、様、方、中、身、を
奉、出、し、し、と、く、累、年、を、ま、せ、た、お、代、り
物、有、是、所、先、祖、様、お、代、り、の、徳、
後、を、お、代、り、成、る、所、人、の、身、に、新
奉、年、有、り、ま、さ、所、代、り、の、先、十
家、盤、々、先、を、縁、出、した、る、物、お、代、り、
縁、け、お、代、り、へ、減、り、追、々、盛、な、る、者
御、者、の、心、生、ま、る、よ、ま、ま、身、上、を、ま
止、り、お、代、り、の、心、お、代、り、向、き、御、代、り、
以、時、の、お、代、り、指、城、向、る、高、人、の、身、に、
お、代、り、お、代、り、御、代、り、人、役、買、出、後、の
者、お、代、り、世、に、徳、を、入、願、お、代、り、

行存うぬまを後傳也海と市目標
たをなむ何時に立有るやふあま
根筋魚は後布より仲間一後と事
あり後々他出約束容易と後
但千両八百十二年と一古徳也
其法を指し傳言也并一日ふせに
八百文宛出は法を時八百と金
十二年とつとるると世の好む也當時の
相傳もとは七ヶ年傳と八百八ヶ
千あといふ言大會と知柳八百文宛
出は魚ら立時八部の出とくたふ
録うをしと遊はと括者者の守統
先祖より實傳りて有る也
松以傳るのふり傳らぬる

一 所提を大切相守と案

此條は所法度と背き將實措の

時負都る忍事後時をそとく

重科を行ふこと後出はさ事後

家政の安否置所提と背とる根

心算す一はさる身事措は即ち

我家と事心得とる者之と強はし

貴人出の各職事を勢のまは外

下物と商人日々稼の利徳を家族

枚由務をへと身事なると其職道を

今人それの善を行はす外恐得

遠くは知事より外は應ある心は物

さの直其方の傾行心の我の事業の

為弱道と成者や真の二為さく

修く先ずは我家業を道初め
相學せ共一方は真實相立
行要なり中人恩におのる
子分出情深人の道と言也

何しやを御所の扱を学ば

我ういふのみもふくむ

一富成爲るは親友を忘るる家の業

此條銘々家督は先祖の世々の御物
大切相守又子孫に守渡すは後
受取人の因らぬ御海をへは所
要や伊の身持業を御所御所
以才豊ふ存成へ富を親友と忘る
事なめし父の仕作は業言菩薩
実のち程明も但編後をほす

此言人も亦等しく身上みのる
ほゞ人よまゝひくく屈む心たゞま
保つて急角流転も人情の如
其心付多し未世の者先世
即恩徳を却薄し何傳來の事業
一節に相守身上宜し隨以却る實
孝子に於ては家富時にても苦力
福な人情ある者や是以外のあり
只身を脩家成をせん我流世々
道由勤む相勤む事守り
田舎杯も己も希者なり死時自然
大急の疾者も死時心起す大方
身も少く相向ふも也務む
明も其後復立其志も亦其

災の及ぶ事甚くは若大なる災後
小成天の忌祈諸人恩を享せ
相成事を志す事なり

災の及ぶ事甚くは若大なる災後

富ともおこる心記したる

一 飲食を節し淫慾を去る事

此條を食を節し淫慾を去る事

淫慾を戒め身持慎弱持戒
を以て家を保持するの事
淫慾を戒め身持慎弱持戒
を以て家を保持するの事
淫慾を戒め身持慎弱持戒
を以て家を保持するの事
淫慾を戒め身持慎弱持戒
を以て家を保持するの事
淫慾を戒め身持慎弱持戒
を以て家を保持するの事

條止皆子孫為愛憐を思ふが事
身持望を初め父祖の孝行を
これより其身のたゞの句端を家
にのまらば命ある時も何事可
し祈り心附所あやけ條我を深
思ふ事守御をさしめし路を
たぐひ條長末をせむ思ふは

我々命は先づその事定むる
親の心を以て思ふ事

右條々當宗七代壽富自筆
子々孫々申遺永世堅守る事
我々十六代宗七代壽富自筆
此後口上の事を知得は後定府
下親之店再興也

途中 4 丁白紙につき

撮影省略

禮下

壽富編述

忠恕子

家訓永續記

四

修身治家



東京

四 目錄

一 家業傳承是為人_三之成事

一 都白主人に相談_二て改事

附 主 慎 方 原

一 初めに仕付方の事

附 話 々 勸 向 心 得 原

一 至よ相成者初業を為_二て心得事

附我若年分勤振之廉在

一 涼上申分茶屋拂亦事

一 同天命と可顧事

附分家別家之氏共取扱方
之心得廉在

一 會津神公様亦事在

一 諸事不曲在心掛事

附吾心く想能可お守廉在

一 家政之代懃中々備之建事

一 衰たる者土炭氣と相成事

一 我仕年分身の行事

附身分身と保方教廉

一物与家業稱自方工老人可之
相傳不取成者必深考萬端自得
要之若思成者必不能時其子
家業未熟成後之主人素人
永續之妨子必成少者代
家業之道必由心得未代
他人指之建之極可心也

一 我家諸事主人に相俟とて取計ひ依
家法永く守る一若愚成りし身其
く賢人とすゝめ侍人と愛すれ相成忠
臣用いらせし己の好ましく遊山事乞
ま落入遊々野^新頼^新侍^新者集酒宴
遊無^し耽^る行^ふ企^む成^る行^ふ先^づ一^は私
成^る主人^を我^の家^業の道^に暗^及心^術
さる^は後^世の兼^る事^に是^を後^に面^白く
依^時々^に官^視の如^き者^に換^取振^茂官^一
か^さる^は自^ら悔^急掃^き成^尚又^後
是^を向^て艱^難く^して^は其^の不^敗陰^を
嘲^るれ^ば公^家長^持の有^り明^補と^は後^身
の覚^悟後^にあり又^は侍^を重^きに^は捨^捨手^に
侍^也其^の主人^に大^令と^は是^を兼^りて^は在^る侍^の大^力

反主人の奢りは大重費をへし右作石取
締り功ありて責買り多く取扱る必利
益なく門外不取締り相成大徳の身上
其の果没落近く抑之祖累代丹精
を抽んとく貯置休家督之其盛衰
只主人の賢愚に無き及不修し主人の
小時も分家別家一取者多分早々没落
致す也家名永續後代に於て振興獨り
一

一 子供初少くを仕附方と成候は仕込時ハ傍
より目撃せられた候へば多き者多し候迄を候
多進其後世を考へて又その仕付不致候事
事也我不知年分花方よりお荷物取扱
りなき採育示し候は三河堀家を振興事候

たゞ色を義と思却る面白く進成者
明其通初より之扱是来を抱く者の内
此年長名奉公者更進思者百餘業
夕已言好を依物扱未不及及花方は生る
拵取扱と見思思何ぶぢんと己と坐る
のこたふ侍中東進と名止高賣の婦は成
及眼蓋たり涙々初分はけたる事ふり
事もたゞ色苦なるぬと申農業の苦
勞や何とや朝の早朝より菜と菊より
たふらる薫と田畑とわたり歩行又種
取りの節妙人と首にかき種付し
田の草取せりハ鏝ぶる食は思者も忘れ
を寒とり不厭田畑と耕事申々の事
店者扱も容りし由事す扱又取系

大海を渡り風波を凌ぎ怪業作、細波
或止し合戦を以て争ふ事を見れば懼る
而も同去沖舟に居る五多の男子一人
水游店をうけ付何れも事運連舟に
人其親たちの中へれり忠附し未だ
少く我々の子供水練、沖奉公及雅志を
叶ふ業を卒らざる目よ遊ふ所行す
成りの少物語あり

一 至人可相成者知れぬ所様若し那
よ云月とて家業し如意と心得只
浦推量する利よ云也一は其公の全意
と赤居者を見時、悉くのおもひは
世に道は暗秘な事、右は大概及
三合一修者たる表と人と考ふべき

縁多し人自然と余人に中なる様成行儀
是邪よ均一何事らも位た如きよ好むり
とては家業との相見も中間に執りあはる
杯出仕に仕積み取も若年分日々花方相
初高物受拂いも一花は月又道一の方
相初高物都る取扱守儀も多し力の
仕業も身今迄考出時の如しに申さるる
血氣よすも力とけり一と想ふ人
中下随者も力とけり一と想ふ人
扱ふ力も外我細腕も今七十より
市場に出儀扱ふ事な色苦もなれば
弟儀に見事一と行儀も今若年より
仕込衆にあり高貴も引渡り余も遠
花方初高物受扱も若年分迄

自分を取討ひ依く物に納渡世大に方
日雇し者勤る業進も悉心得居る何
事にも不慮交差歎的はりし中斯等
得たりて六都の各業向不行他事先祖
心外此一物商人と交承世忘るる人
是邪宗なりと云哉非自分か何事か子と
心一止一法人に相對するを如何に思ひ
辰合し者よまを世にこもいりてるも世應
對不行他のけ者よ不成此業事し其對
面心得ず大勢辰合たり其我一人の辰
心心得るも其歎て改事

孫に下す

一其評ハ主人と事及子代ハ勿論分家及
同道と御喰物を掛又ハ芝居杯に於て

此大割合ふと後事^三何^二もを^一済仕拂度
有^一右入用^二御^一死^二人^一中^二少^一出^二入^一帳附^三
答^上下^下依

一 姉娘も前共回^二心得^一入用^三有^二御^一死
人^一中^二少^一出^二入^一帳附^三

一 人^一性善と孟子^一言^二給^一夫^二生^一受
たる新^二俗^一善^二者^一と後^二の^一明^三有^二る^一

如^一然^二を^一我^二の^一私^二欲^一の^二多^一は^二小^一暗^二く^一有^二る^一矣
張^二濂^一の^二子^一置^二阿^一々^二曰^一雲^二小^一等^二々^一は^二毎^一
小^一量^二ら^一ぬ^二も^一我^二心^一と^二心^一我^二心^一を^二察^一々^二念^一以
磨^二き^一拭^二ふ^一々^二然^一と^二立^一者^二も^一志^二実^一而^二直^一
々^二事^一と^二心^一然^二々^一々^二何^一と^二り^一我^二依^一爲^二
随^二押^一後^二者^一及^二才^一一^二我^一身^二と^一顧^二且^一家^二族^一取
締^二々^一汝^二賞^一罰^二と^一紀^二生^一事^二一^日一^夜も^一油^二の

致さるる世専ら心を扱又分家別家系
 巨仕者扱方成所不之理なき孤心を
 専ら夫ら成使す者迷惑の事も有
 りふありたりと之者卯心悲道の成
 何りて市くの難成重り其交分恨と生
 忠心と共い甚志系至も能敵のいそ
 成行者や地る人怪ふるめらぬ孤心を
 行事廉直いりや家門和合くそ有難
 相心得家事治るれ行要のよりに何ん
 うよなきとる標別成お席は後中笑けぬ
 會津神公 右中將保科
白之郷
 台徳院様より九男を治る外景氣と人
 よ共いし後と心を習の儒官より極を成つと
 云者或時 中將殿より其方う身よ

何ぞ樂——と有やと身られよと又其の
兼りたる樂なる事二つを其不足と其
かど難有や其由は其色は如何に成
本之聞たよりなり其色は其又其より
私より一貧者少く其色は其奢りと其事終
るなり若し富貴は生を以て得た者と常なる
礼儀の道も其方より天然の貧乏と其
加と其樂——と其由は其残り一つは其身給ふ
事より上はたや其くより其く其由は其
十日有り有て今一つの樂を聞くと仰有
は其ハ其又其何より是ハ其少く其事は其
と其ハ其再急身同れは其又其の謙而
然らば其上は其大なる生を不申是大成
其加と常々天道を對し新有なる由は

多きハ 中野殿其子細如何成事とて
曰ふふと云ふつとね、其事よ此處ハ大なる
ありとて其處ハ生得うとて、中野言ハ
皆ありとて、家来分遣しとて、中野身
者よは所通、明軍とて、その多し、忠事
とて、異見一戒とて、後一ヤ得た、大石
少石、私一人、言ハた、此の言、事よ、此處ハ及
飛角、所、機嫌とて、肖うぬ、私よとて、後一ヤ、此を
不ふ、少く、其、且、那く、能き、事、此處、を、心
如くよ、此、之、を、や、此、氣、よ、入、た、此、の、為、の
無、事、なら、い、と、付、何、成、之、理、と、は、作、ハ
中野、所、を、く、と、一、及、且、那、よ、い、ハ、と、な、く、私
隨、我、後、よ、成、せ、た、多、く、抄、せ、し、よ、り、ハ、一、言、諫、と
一、上、ら、と、ぬ、事、よ、成、行、ハ、い、ハ、聡、明、の、生

学問を好まざれば仁政を國中より行は
ず一教なくも諸公をそと備前の芳烈公
水戸の義公會津の神公は之の御方
と千百世の中難有表と傳は奉

一心年々なるは物の節道曲直大徳分る者之
我々の事一言奉る危角曲りかちよ成
者故其まうりと世を繩束は則吾總矩

るえの心曲らぬ者なりれと人よは得る
手と欲心と一物のためは其真水の心
も時わく曲ら有時も善心暫くも
能く考見は事は其手は其手
曲はぬと氣の其事は他より見れば
大い曲なる者也十人並の旅客者
己うはよきことと思ひ我は其を

と思ふ六外の日六好禮言をうゑる之智
才氣をそのそのふとく己ほさ慾心は其
まきまき真心より非道の不行り知れ
ぬれに枝心と云ふ吾心を忠臣奉行要之
学問の道り是六外を以て一匙の邪心
有りて一身不脩身治よりこれに象高
治之らと云ふの門て日々を曲とたえむを
事忘却をへる世に衣被の徳曲又は柱
戸障子に曲りむづと云ふ世に己の形行の曲
打捨おく大威心漸遠る梨

一 家政之事都るに代徳を以て永續し備
建かして我亦江戸店を成文代よ起さる
成水交年数りあまの世と辨るれ我亦
其後と信る長あまのりて象法相定

能得是性成備未立亦係我亦非
長来しく縁得ル必満備成を成
其相成永續之仕法之可成事肝要
也此の如く是れ今心之
たむかけ一繩の尾末成り
而ひるを成るはきたり

一諸人身上傾か山隙又いち成
よのち成る事ともよみ身上成
る者取合しるは空虛者等成
る常の縁を志し取合しる
心得山隙ち成相場性合高し
却ら成時滅之及者多し身上
し成の者何れ成天分取運と何

原さやち作山原公彦少く坐常少交
少汚交活謀斗成よや

他一公彦と云は字来此世合高也る
將亦大よ等しと古公彦の若しみ云

一我仕奉公身の慎すしりく徳と云
今七十年身よあふらとて再自慙しとて
未曾て不妻妾と云家と起し家業
此道以盛んやとて勅行改め奉余年
子孫と看尚茂身と慎ま命長くとて
家と起立此と事我よ賢らしと志
を云

又永續の道は先考行の志し奉りて
家業と守其身と備むるを以て
よとて謂ふ其根之は序事と修賢

積く備懐よき事專つて然る時ハ
我心泰然として渡世の一助ハ心ある也
家と治る道ハ自中自在ハ御のなるを
皆跋心備厚く積り健厚なる故也
然ると酒色ハ耽身持惰弱ハ夫婦
人ホ心と素素ハ時ハ精心散して見
まよふ見之を夫問よまよひす言ふ

其味と知くは我ハ是の踏ハ定むるも
才上持名ハ其上攻身積力衰る時ハ
卒是不自由なる人の介抱ハ然も世間ハ
不ハ扱又能く積物ハ縁たりとも短命
まてハ家長久の仕法ハ行履さすた末
祈よまりや何れ必醫ありとも救業不
及金浪財寶ハ家のたう其身の宝

ハ賢精たり親ハ我ヲ命と認ルルアリ
長考と新定と必若年より其考を
大切に持保す命長久を幸家ノ為
身のたゞ孝道に随一と念を盡す

47

1 卷下
1 卷下

礼下

高野富述

中子也印

家訓永續記

五

高野富述引



東京

五 目錄

- 一 物于額間在持以涉專事
 - 一 賣人沒買出沒心得事
 - 一 在回文通題不可忘事
 - 一 涉容方其家誰之為忘事
- 附其為沒之者他出未設相場海之廉
- 一 買客入身之度每事在事

- 一 買物元高直亦買不中事
- 一 貸賣之筋不面白事
- 一 買物元高直亦合初心得事
- 一 金限拂方日限相違以例浦事
- 一 賣買手打判證文同換の事
- 一 字勘交某商賣扱振事
- 一 先前年合品川合有合品店為事
- 一 諸人並に敬事一の事
- 一 高し斗振の事
- 一 同子屋可取扱事
- 一 大換之御取扱方事
- 一 物干紹肥物故米穀連事
- 一 米穀諸品之司た事
- 一 山師土炭亦戒の事

一 物于加去中身の商賣事

附何事業も年々の益を思ふ事致
匡らぬ取柄を思ふ事の廉

一 諸事の望取扱事

附海取扱事未二心付廉

一 損免せぬ事初分可考事

一 年度不取扱事

一 渡世の活き事のかり事

一 諸人の不為る品扱間補事

一 仲間乗合商ひの用事

一 加たげへの扱方事

一 上の方取引二季陪添事

一 高人身持方心得事

一 高賣事仕業衣類事改事

一 取門先金高心定事

- 一 取引先若輩の死心得事
- 一 同焼ると死と恐る事
- 一 年代共播たる高い段方事
- 一 為物所り人所要事
- 一 五一役御油有内浦事
- 一 為物積込心得事
- 一 年号不付、十十十二交可事
- 一 子合出年ぬ御、却る為以て扱事

一 稻千稻商賣之儀、持以海納るを專一とせ
其内損金多し年も巧りて先以十三年
平均と心得居る旨父より仰ふ右取扱
取し内儲り年幾多しは左丈、定式取門
に家には取進へしは左丈、先方も不
川合、亦も成丈年抱取具は丈を為方十分
取し、先方も同様と其氣通は成樂

仗より以て押合と流る如く張平守おかし
危角取門の實事と云ふ事と云ふ事と云ふ
事故儲之何事、能と心をもた通り一
遍に事、水之取門、其後之物、何れも
先方迷惑せぬ様子をへ一先代金取替
進出方多くある故、尚方實意を以て
金子取入に御必骨打るもの入るに御座り

得たる物、代金、但促わ仕たりお座り
損合有品代を危角延滞成るものや
一商賣取扱方賣人役者、誤方荷物
引渡り市先との仲間、賣渡荷物の引渡
貫山、改取成文、出粘高直、賣付の事、
寺公と云う扱又買出役者、賣先、
能き一、是等貫山事故市先、成り上り

買入か、かく買附せしむと買客の御手
依る因店内なるも、亦三厘合度と云市相
場中曇立事、此扱又市先扱振賣方
之者、或大振動出たり、振賣と云と云
買出方、安直より、治とつきいさと云
双方も与らるゝ的と云、ぼんと云、ハ
面か、は、色の見込、か、め、買、事、あり
賣方、中、茂、因、換、銭、込、か、さ、る、と、云、さ、る、
も、有、故、お、か、か、と、中、天、物、成、を、後、儲、ふ
か、ぬ、と、の、一、生、御、方、古、と、云、不、小、買、入、
既、市、先、者、別、安、買、取、た、る、也、ハ、先、と、は
酒、り、割、る、扱、ハ、必、納、り、事、也、扱、又、賣、方
ハ、不、情、者、賣、附、直、販、者、自、分、と、云、何、物
不、送、事、在、成、行、屋、

一を四取引を都る文通と云ふは、
伏見の熱湯といふは、
漢示茂國旅し事し心得伏見の湯を
伏見にも文通といふは、
我阿りて肯おる共文通といふは、
先方をも字の援中し、
客方事ハ容易小なり者也

一為に方并買出に、
是れ又、
心為に、
辰合の、
多の、
方不、
有との

改定あり

一 諸國より買出は茶の旅人を方有
友時、相場亦之なく高き不計の行有
その為事なれと時に相場、をを自
貫通する物、其の所なく、その為
亦ても容易に便く半合半如く、貴
るものを買むるに時、その方も考へ
魂と入ぬと、ぬと、我々年々、苦
か、その後、深く、その方も、同
働之時、その物、そのぬ、その
丹桂、その茶、その茶、その茶、
農作、その茶、その茶、その茶、
その茶、その茶、その茶、その茶、
その茶、その茶、その茶、その茶、

有商賈及商の實利と云ふは是れ也
之金の多寡ありしを思ふは海陸の
取扱ひ自然と實利の由て繁昌は
へ一素分金限の世の至實とて後
海重なる故自然拂方及他取入方
之交易故賣方、皆折買方は是れ
能大切し金限とあり買取取はせり
此は考及相場お成るもの

一取引先と後使く買、大方貸賣と和
まて不面白と後考及、代金納り
と心と現金とを相年より、
子金好く、左のとき、
より、長袖は、
後利、

多小賣買に付所相替換者二年以下
因取長く詠之店、不子際く相又貸賣者
よ改以時、並販高く賣まる及右に任心
買入方又、仕切並任も自與分る並、有り
ゆゑなる

増補

史記貨殖傳陶朱公曰汝幣ハ

欲其行如流水ト云該ハ

聖ハ付取多く儲ありんとて水く持不
り又ハ利益を多く取らんとて貸賣
をせ、或は下並買入むとて前金ヲ
存す等ハ長石巧者之類也財幣ハ
利害たりともありた常ハ融通
一其取や滞ありと流水如き所

此處一と云り勿論時小意一と云
沃茂ゆえ多れとも大意はけを得たる

一と云

一 入本買客自分最初二分は二俵数俵有
こゝに右物多くと自然と乳六分交りぬおめ
その故其換換く良、必初と進めは口と教
不云換換はへ一と云ふはと其言より

破談と云り是邊惑はをよのこは心所
何後示せと入此字交然合向ゆ、お
談落合相落るとい其場をて事と操
と一言、不字を知ん一

一 商人買代金現金対談、勿論惣合限
取川、後日限と相違交拂了は是是代一
と事、不右と一延ふは、家の派謹と知る

一

商人賣買正取極平打致判記文
考るるを望事と心得居り改米穀
渡世の商賣の利を諸國より廣取扱相
場、時々刻々高下しし江戸河原く
大坂堂橋杯目く大穀穀神とそ内ふあ
つのみ金取家もその御書付くあやりの
せぬられと先利と正取遠たると云者左
なくお場高下する共破談証及も者も
互る交ひあ買取の好正取下たる六川九
下取換先有破談が由多りのあれは
時小利方成事あると正取不成分論
るは米穀に限たる事にあはる何れも
賣買好相場高下を都合と破談不

成りたれば事なりや相場は日事なるを
 先方逆然少く不成あり及一旦賣買
 仕向破後杯中言ふ商人法は是れと
 色く言第と有破後く是れ又は是れ
 中者有者交而破入厚き事は是れ
 是れは相場不拂い其又是れ之累
 玉と求る事とく賣小花とあるは是れ
 古人紀文もいふは依り買入る和名入
 相乗代拂いこれ以て海は事是商人
 成りて事之は成りては取引跡は成
 始終乗取の基と成之れは又賣買
 之と成有る現金を成りは是れなりとも
 花と散りては賣拂いとの事なり
 一野列宇都宮宿を某氏一代身上起立

回窟言長となる其人商賣は振業あり
若物小間物大物類家業あり度扱
仕入は苗地は糸糸初小店柄は有物不所
買取取其傷はあらく重き端限近皆所不
お拂荷物は記言同者自然は下より暗
負何りとも記言彼是一切不不実の
計の及有者と云来取川不仕方先言後
記くと思ふ不意容易不実不取在取金
記直切不金と及取と二百もの賣高少て
き多く利得たりた金に取成上は取をた
入用も何者も別々高い物店晒と記
に付代官物新親は取及事も何り之際
不主と取買入右と云記はたは集取た取
場不又江戸の者其買集は同女と取

一買人多く有利なるも賣拂金亦多
必件に送文分奥列筋に賣拂はた
ありの亦も相應ふに付は越右端浪迄
其場は現金拂切はるすも亦
之極の買方た亦ありて、換り下
入るもの、現金拂切はるすも亦
代金百も余りあるも亦あり、先
百も亦多る物、此と上は海津仕の者通例
して自然我の心より亦あり、相場
下落も亦あり、残金と押し金、彼是
道利と付、此を合して、又、此は合
たる物の端浪と、此切、彼は、此を
一旦、此合、此は、賣方、其心得
と、此は、此は、成、此は、此は、

多を在るは利はも或可補共一人柄も志
不宣如之

一 未嘗に向先前も今も此の言も未
必終へくも此の前も此の言も未
まへへも此の言も未
の新説も此の言も未
中共先言分亦く此の言も未
たるも此の言も未
先へ分能くも此の言も未
まへへも此の言も未
ゆへも此の言も未
蛇と此の言も未

一 都る商人賣買の時此の言も未
諸人に愛敬ありて此の言も未

少欲すし者す之何んを能家に誰人も
立未易く不何相成家は自能之業あり
カ物多あり之何んを以て此年生之行ひ
實能速く此業昌茂生何んを者すや
一商方之成登、賣高金ありと云はれ
利は取度物あり、賣高言或あり
七拾あり利は有れ心あり一在るを女方
収く代金も自らある所納却る家入業
用ありとありや

一渡世取扱方之成登、而も能るもの扱あり
り多あり又扱ありと云はれ、拾ありと云はれ、心
を質素、儉約、取扱一利は高き、商賣
は必損えも、割、有物及能た、御、
家内一統心、緩み、補、用、相、増、損、え、有、連

俄より補入用減せしは新法に及及地を所り
と定規より暮方所を事所要の事

一 大漢門谷成今年よりとも安底より
さるる買入の高止重なる賣退なる事
心をいさうしを買入以て進く愛持
能る所あり先く一統利程なる所は及
たは移るる事も多し如き事あり及及事候
より代金集能る利たれとも金くも取
可成なる事なり商ひ事腕より及及自分
を人に買集るる心よりありしを世間を
度く腕立の及及事何れも証添なき通
水地品切を移るる事進門より忽暫時より
夥多を集る事より移るる事進下所おる
自然活物より扱ひ事よりありぬとの事

知る處一飛角買たる亦いふ子小賣爲
利たりとも現金商ひ賣高心をも
自度たの得也、田原年得ふ永久海也
繁昌する事也

増補曰

史記貨殖傳曰貨ハ勿留無
敢居貴論有餘不足則知貴

賤貴上極利及賤之下極利及
貴々出外賣去賤取外珠玉
右、賣買の利は長く賣を爲すべ
餘ると是らぬと云由源と考る其
の高下を知る一自然揚の極高く
なり強き時は必ず止ま返り下ま
極る時必ず止まる通利たる故

其世の高直に成時、却る等々復し来
ぬる一々、後之を蓄其土の如く後之を
得るを賣又之を中直の時、珠玉の
如く貴き氣の心持と名に法分大切
心ゆき賣其高直に迷ひ出ぬと
重大利と貪侍いふ事とある
時と燕一差歎と考ふる有る多し

史記の意如斯

一 福子縮、田畑肥、物故先承、米相場小
連る事あり、決して誤る事あり、勿
論且矣、物及おは、大たも小取扱、此
概他より見ても、錯る事、玉錦、蜜
子、白と、物と、新と、遠と、愛、買、合
有る、其、事、の、之、而、商、人、皆、知、之

一穀物、諸品、根源少く萬物の價米
並に大極として又より諸品乃相場
別あり起るものや依り穀相場高下ハ
夫意より人介り及ぶ所、何れも上商
言及よりせ限りなく取扱せらるもの
法商賣の月なり、是れ大反法也、是れ
業人多く多く、目先の相違を知り、一生
安樂は、莫有、是れ積儲有るべき、あまや
ゆの事も、知事する、ハ勿論や、仕合能、微
物、そのものも、又、換色、し、始、終、本、末、の、限
か、依り、学、問、三、代、相、續、命、と、云、や
右、渡、世、人、ハ、大、祿、と、者、少、く、且、同、を、と、
以、沙、を、と、也、此、も、且、相、續、三、代、を、換、色
通、り、と、云、る、人、ハ、方、未、ハ、没、病、ハ、何、れ、也、

美言を右教の多取扱ゆ事あり
下も遂に之を暫時大損落身止付
ありて心商賣や依り永續の心を有者
海原の家業何れに公道理深考
右商賣必及び補率

一穀商ひ勿論於る俄に大利見
は用村商賣又ハ山師等の本商賣

あはれ継令一旦勝利有るもあはれ又大損
あるもの之定て渡せたりたり仕掛
事ハ宜かきを諸事内端もあはれ
候約也〜〜〜多かよ能〜〜〜暮
方手短小より少く宛るも年々〜〜〜仲
末らまで治育くの教書冒と心を有り
俄に得利深ハ其者御振取〜〜〜表也

自退不致少々事係先代小石若儲け
收を世間と聞は仕るも未熟不
見事と付案并新誤り出を事と云へ
一 兎角年多より多分仕る事と云ふ
多分遠てきて其取戻し極むる候
深見と云ふ之類も事取戻らるる
も利得有る物と云はれ候も事
と先々切と云は纏へし一損金物少
角見切想して儲より損とせぬ
寂初より心を付ひは肝要なり
一 物に細商賣が去年中の商ひは
古月迄の角は其年の善一方用稼
出をその方の渡せや勿論流不渡
強引裁引令善思有極又國府

家業先々自叙亦彼地を在りては
商賣及の運町中邦の高貴繁昌所
業高進くお増近年格別余分之事も
有りて新背去地を何地とも不降不
於金の年茂有座一是ハ時々の運也
何商賣たりとも苦無何々倣依て凶
年ありても困らざる所年を賃
素儉約と有り一累年賜を為す
身交河を初うぬ欲兼る之悟備
至る事是行要也

一商人多度ニ賣買はるるは其極
少心是之依く此心は荷物換入の
業を暇に沃山積み必宜に取らざる
積るる事也一夫傳馬町古物問

而中賣買損益又益還なる身上
痛覚る店は容易なる由荷物大積
之初難破取阿と一時滅亡とありぬ
有る趣了忘依く我未も取而持る在るれ
と大積と厭ひ増ふ外合言る荷物取切
買積と中事しとありぬ

一商人成る身分を應へ成ぶるも度商賣
致すとの係基を基ふと困ふ賜と
打るるは負しと打る云ふ心付徳と
取より損とせざるを先考す一をい
らふも度取共身体切打るもその不
阿も何事もあは悟証を應へ
一商賣取扱は年度致し身い安くと
是量も何れも是に洋料能又ふより

意外押廣ける時、未だ纏附業ぬる
も成りたのや、是も心附世間とるん様
茂よ、いゝ暇方、交集むるを、さうさ
想ふ取纏約ある事、其心かゝるも、その
強小念量、極よ見、は、は、は、は、は、は、
保たぬ肝要、付相忘きを、追退、久し
は、は、は、は、は、は、

一 渡世、其家々に受かり有るの、少き
國人、是通ひかゝる、遍去れ地、只、尊き
神佛と祭を、洋禮、は、其系、清く
歩、叙、少、暮、方、出、も、考、之、より、て、
は、来、の、家、業、を、大、切、お、守、付、渡、世、に、傾、き、
奉、ら、る、か、た、外、事、と、損、益、と、し、人
の、批、判、を、依、り、我、家、業、の、始、小、お、お、知、中

即ち高ひる新利匠を得ると身分も極
く後心持はせしり家業も日々稼有る
當り前思ひ其額も年中暮し居
有かりきと忘るる也

一高ひ物都る徳人のたえし成りと極し
心をく奪し人の不為に成物と夢買ひ
自然と不實に相成ると實利もあぬ
事也

増補云

孟子曰夫人豈不仁於函人
哉夫人唯恐石人傷函人唯
恐傷人巫匠亦然故術不可
不慎也

丈夫と作る者、世夫と志人と射殺

らん事と思ひ具足作らざる夫と防
命を助くしとす。巫人の病と祈
人の生るを我利と。一匹の権標を
作り人死するを我利とする。畢竟
夫人と匹と、不仁の心ありて商人
と巫と、仁心と決まらざる事とも
長家業と市中の相違ありて平生

此の所の業の撰懐様をありとの事
然らば一く、高貴となすとも人の為
なる事と賣買を成す

一親類懇意に同柄事も仲間宗谷商内
一切費用必矣漏れぬものこそ介然る
仲間より致事不立也取は柄持或は如入
緊束何事も費用たる事

一 高直物買込かたけ物は山物糸の初一夏
 手交を以て多く取進成丈を損元たも
 一 此は買込法人心少代金延一ゆをも
 一 産扱庄付度よりて身元を落すも
 一 余分高物賣渡は皆取立言法は字は
 一 損元の上括別貸合嵩み始は滞出外
 一 而所高圓もその上賣進は度押金一
 一 中より近られるもの少ゆも却る扱元
 一 遙くおぬる者多は之に産金の方互
 一 兎角金子取纏ひ糸方一斗少一也
 一 其初に扱取も多一及一際を新中は半
 一 先是近に成行へ傳ふ所へ依る者も初
 一 用心一かゝる者も一と一取込一
 一 一上高取の重暮二季も一と一大伴治部

相成公右と好むる節を以て不面公と
心得一々去買付之日限を以てある一
張をも十之程を事し

一 高人仁轉世間より烈怒を見えたる
宜かたはけいげりたりとゆふまふえたる
とよりとまを馬鹿之利根ゆり流及人
情及者者取一ふくき法行也股の中

一 下等量あるとも商ひ事一を其の量
と流其方味ひ好く出る己より利根
めを定一かぬを知へ一但田畑山作有
又の定地代店賃兩立都るた所を事
愚人の世も不宣株式を拍り候に
右の所たる一

一 商賣の赤衣の痛又の穢臭の杯移り

所扱節、其度毎は業生、衣類、
體と不厭みつゝ身と入扱へ
事、馴きも入たる心ありて、
ゆるを案弁し相違出する物、
己うと云天狗、或は空かき

一、高心取引先、又貸金たりとも、
令高何程位迄、用立て、
為急附、在取引、
立、不立、
父、拍、
起り却る滞、
一、取引先、
一、取引先、

萬事を平に自分商ひつて好む事を取
捨多し事也

一 為物欲り人肝要に役らざる事
多し勿論債取相違なく其債の因みに
扱取を思成時ハ一方と者名留置
之債を以て取らざる者自分不相
取取らざる一有りの安河ハ其而
心付

一 然る其石似合の費多し流分を
今年中時ハソコ之人の物押領
成行又ハ一夜の者不來おろく
尚又取付くハ一取付は債を
高多し取扱を債取多し成
る時ハ多し然る債の取
より不付心も生る友油取

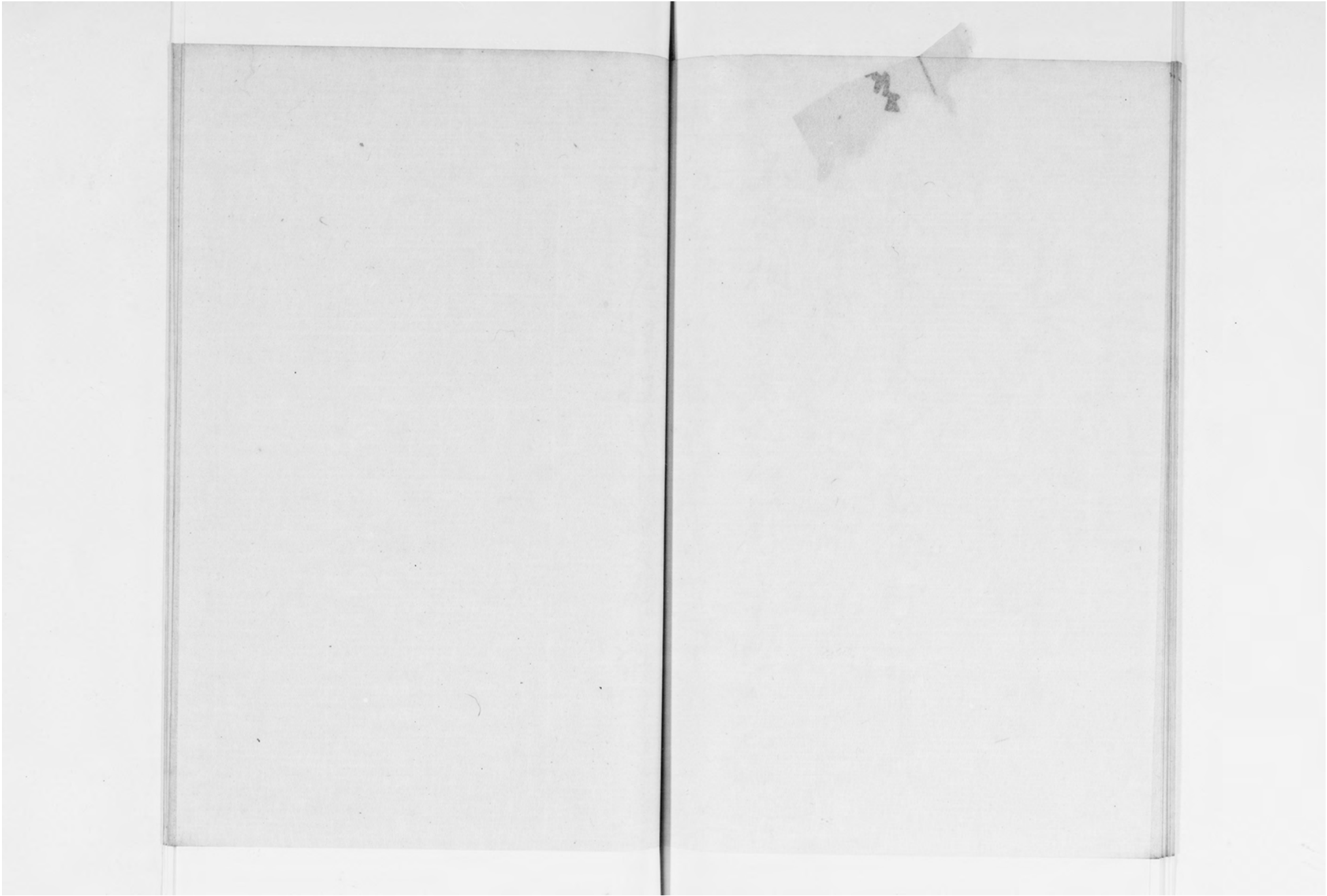
依る所物改方折く自身調ては事
肝要也

一 荷物斗りて一掃を御悪くは
阿まひ能く人とし合悪事
世西よりする者又は改く者愚ま
ていし改りし者杯を掃は改りし
心交りし事を知りし

一 諸國分積廻り形又いふ方
形心も各安節油り成るもの
上方各各所物登る初先方
貫れと合各各方改改
兼と隆便と心也教中
尚方集遠何る屋下
札紙各不相改各各
判各各依

山崎北入津と御元押ひしり好店の因書
千里と云ふ一乗の廻り方と云ふ流落の
山崎屋中と云ふ津押願はれ亦今白論
不布と改行修相款甚御山崎屋中
正成相又後社の後荷物は入積込
船中と容易と荷物操込一積込依後
今夜又と云ふ及と御元押ひしり好店
是と御元押ひしり好店
右接荷買人津之浦と云ふ
急取車と御元押ひしり好店
一際と云ふ不布と云ふ白論

一 年号記不中十二支計り記物と云ふ十
干相記と云ふ刻章押何月何日と
認方と云ふ右取と云ふと云ふ後と云ふ記り



石田一山

家訓永續記

主従之事

七



七 目錄

- 一 下後之者たり共躬の事
 - 一 仁義之者たる家實と云ふ事
 - 一 若主と云ふ若と用ふる事
 - 一 主人と可敬事
 - 一 主人と能く伝ふ事
- 附 古仕共心得在

一 我家都る子云月の事

附 中年者心得へき事 廉

一 別家改たる者不再勤振心得の事

一 界分先前中甘の廉く在

一 主人店廻りの初心得の事

一 手代共没後中附初心得の事

一 手代人主人は目見の事

一 同召抱方々事

一 歳累三随ひ年巧成事

一 見廻役専心得へき事

一 主人たる者依已不有事

一 縁有者守身ある時々事

一 店々手代共扱振へき事

一 手代た篤実女御斗見込役事

附主從厚可心廉

一生涯内善悪心得事

附一同心事可相守廉

一忠心者扱事

一通勤者可心得事

一手代者見世可結后事

一在公中可心得事

一子供取扱事

一在公中自分高貴被問浦事

一別家にお成者心得事

一在公人扱事

一在家と思ひ方の事

一罪の疑ふ不罪事

一店取り人死人の字を扱の事

附右とある別家の上心得の条

一 店替ふ或死人病對御の事

附種々心得へき条在

一 自ら切に請願補事

三

一 主人代替前心得事

一 預役之者可稱店事

一 忠義の家系の本 字條在

一 店替人及死人病對前心得事 三

一 店節勘定心得事

一 親族長をり店の事

一 若定差略の事

一 主一代替若の事

附之從共可心得条在

一 謬者心得の事

- 一 身代別家後心得の事
- 一 身代共修々出世後事
- 一 上役と差景可守事
- 一 喧訥口論後事
- 一 一人に諫言を致し心得事
- 一 父祖を後立と承る心得事
- 一 此書に論及る事

一新親店父の心得事

附種々扱振之儀を

- 一 店々に入人出入の事
- 一 供人心得の事
- 一 出入の途中礼儀の事
- 一 丹羽先生下男教事
- 一 身代共衣類定の事

附 廉々在

- 一 中御女共可心得事
- 一 奉公人食物之事
- 一 容事と心得の事
- 一 貴族群集する善たる事

- 一 下賤者たり共野合者多御事等
- 親族已に故又い何成る事難有る共
不能救事依若年公其心とて一別る事
公初る者我身之行不正給合不殘を捨る
振ふる主家忠良自より跡略成者
一家に長久を念一景よ念浪る已と心實に
生屋の福を厚く一張徳と後て仁義

禮智之修と守又智仁勇とて勇氣を
くたむべき事血氣の勇と好むと生ず
ず物事深考淨をらみふとを所謂暇に
此よりたゞ人と勇氣とを一安と名其志
一者者撥用ひる所要を全限を其人
の徳に附随なき時我輩有進を融通
の用となすに安と名人有時財集好人
あり時ハ我教とと云はば譯なりん依而
沈勇篤實相撥用むると云はば一とを
一主人若く時ハおのりて代も若く用ゆる
その之我進も因換に知今七十とあるを
卒業位と看若く事と思ひ進出に一席に
かゝる者ハ何れ卒業位以上の者用ゆる
老巧と云ふ考慮を事人茂實のり不

るに深き思意味いぬ者や

一 年代共一同忠義心を勿論し事多し
人の臣として、教よ止るとは、主従の間を
義と名一とせし、教と忘るるを道と
然るに年久しく忠節と名一たる者、人
より称賞致さるる、勿論の事なれども、良
も世に、四切と心よ、一は、をみ若き、人

ふ、成時の主と教せざる、振成者之志、志
何れ、其、石、振、小、成、て、い、ま、と、い、と、云、居、る、に、は
主と教せざる時、我も人、稱せらるる、人、と
義よ、を、稱、し、己、又、人、小、美、と、い、は、不、得、よ
ある、い、を、教、の、心、を、記、事、可、信、す、に、

一 名將の士卒と、下知する、如く、能、候、し、時、を
其、其、思、人、の、な、き、振、り、し、者、之、存、心、を

車の急承慥成時、能く思ふべし、其に實は
る代に賢淑なるに何んか、夫と自分の節と
心得、指ると己の世帯持たる時人として
用ゐる事を知り、是に近き人よかど、免置
きたるよ、留り、俄我、相成、自、隨、落、り
おもしろ、公中の自後、く、く、一人の念、ふ、を
借用、終、よ、ま、と、復、り、付、う、ぬ、振、成、と、の、有、り

一
至、家、取、締、た、め、見、廻、役、成、致、す、身、か、る
以、汝、の、志、に、願、う、た、ぬ、振、成、行、方、に、な、ら、ん、に
扱、又、知、主、に、仰、う、又、い、出、店、ホ、よ、て、交、配、人、其
家、政、と、を、と、も、と、た、付、時、の、御、取、成、と、も、是
述、も、其、巧、亦、其、家、の、徳、と、も、出、る、事、及
自、分、世、帯、持、具、割、成、多、く、為、る、者、も、在、お、又
を、公、中、た、る、色、御、さ、す、者、自、分、世、帯、と、持

相應暮も互に一榮を争ひつゝ
勅申す人見落なきふし
多く其者初情為我身の覺悟專ら
して主家のたれを深くならしむ者之
増補云 畢竟是ハ生質の爲
情なきとも人方らばはる方の下
手なるなり其身と對むる事

一 我家年代共都る子云月る中年者不在抱
振波屋一若く置ゆら其者の年數を
席順振変如何とある之は辰老若を不
拘申しと下は如く一たあり時ハ和合
不致其辰心得の中年者ハ若く是
事

但中年者若く家風と申す者

家法の妨_ニ成_ル及_テ必_ズ先_ニ己_ノ事_ヲ云_ハ也
問補有_ク對_シ並_ニ入_リ事_ト

一 年代共_ニ目_ニ出_テ度_別家_ノく_一身_ノ出_テ後_ノ格_ノ
別_ノ再_初不_仕と_レ半_ノの_飲之_再初_取ふ_も之_不都合_又ハ_主家_ノ人_ノ少_ク何_也不_宜
方_外扱_又高_貴向_之外_吾也_扱事_少也_也
中_絶及_ハ後_後者_追上_達海_舟大_母

る_者も_續く_初扱_者が_差家_多る_一も_相成_る
家_初の_扱之_用之_るも_付給_金も_下り_且ハ
席_取之_所も_尚然_故是_不快_相成_依之_再
初_め取_るも_此意_悲之_殺生_相成_也

是_{より}先_之前_中附_在席_之内_其宜_也
再_意定_記

一 掛_取之_所也_者再_次泊_所也_帳相_記可_也

中事

一年之暮之年代其明年役割并治令

丈之取改之付事

一 毎年正月店即勘定早々之仕在右場
減之有權必令之河決之可也事

一 年代其又依之格式中付与上下の差別に交
藩略仕同浦上席之者に向ふべくと付

言中事

一 其代其見世性之間都る夜分寐而定之
中付与是之夜分人改のた之可也

一 御令身之由客に酒喰居出之御鳥對掛
合指者膳子に於景成兼之時之足付ひ
若略人定置座一有者膳子に於錢
禮之く之付事

一 髪之結振吋流行亦後移少少
小結中車

一 衣服亦身方之流行亦相成風俗形
容も氣と付悪風不成振致也一類
馬毛之衣類相用い中車也

一言悟可寧起瘡も不礼不取成ゆ流可
仕由車

一 都与人々厚味と不好者なり然もも
家の費日々の食車大成なり是世
常分一之儉約や少味と食分常
ふありて居色賞致也之食物も何れも
増るや公人なる者い人更く食物と多
く爲る其外自方買調好物と持食も
分一二人對し不敬之其上面々の

費相成以後自分世帯持出良女其癖
止急一生棄微之基たるへ一禁制た
る處一

一酒吞屋より辟るより人の目爲に急度
計ひ中へ一昔は身替多々回即事

一奉還成時の福あり一高い茂盛有時々
家内一同奉幣さよほせ不善と成る暇

なく不審の良一因際存不善と行ふ
心も起さる是戒むべきの事一中この老は
一候之者介支々心付下事

一夜不寐る初より一候者列座はたし
上統より礼儀至一人初列席一同可
及礼儀事

但病氣より引籠居る者一候者

又之能よりみおれお次す

一 朝平水きりく右流く名おれ持系佛并
読し念佛念ふ唱す

但よりあり二後水浪を

一 神佛燈明五ツ時浪

一 綿方二ツ折流名置す

一 霊膳二人前浪

一月々三日神酒太神宮様并ツ折合

二ツ折備す但朔日又日不白右三日
の事

是迄不前中浪多し

一 諸店其日々暮一方神事専ら心懸

且言人又ハ親族共好戦山御も物入を
祀之ヲ専ら奉る用只名浪をて

一、其支配方者能計公方可
仕以限之人其裁乃其已儉約之
平中と緩切也よと心得遠之

一、年代其役候中附初遠宵あるを文
大切相尋言事勿論之扱所込既候初
たる者今日も下役と成候成力在又下役
之者御事候果進止ると貴様固極之
修く上役之者退役より如知以候事
付たる者御理合杯と心得事急示候
大成心得遠才一人と對不敬之と候
是等之廉は成而來候身付候事
相心得守公之仕事

但中上役少者其身御も何之下廉
之役初度心ひ其其役之事

其切新形依志義の成とて
下段分粒根懃一早くは取立り所
出格致と一且子育守公人新志
言名別御事取立之言仕事

一奉公人右抱多初一人目之に勿論在
玉の貴い文通是と一宗師治差重石
致事

一 年季守公人十二支守者差重石松
致事一 年長た人仕付名宜抱了に
前々相初た者之伴、勿論出入者又ハ
國之と者更々續有者取立名重取致
是ハ一遠由者各用他目之に守月限
実件見更と一守速語状付ハ一不
寫をね、ハ亦く相御中一ハ打控重石名重

相又ち子供を立し初原具持系を為す
其持合々夜の貧富初人産中居

一人半半と壯と言ふ所へ用之て早と
初老と言満花の形又分花散を造り
事半半を令實のり半半と熟す也老
年及建別利根成成同補り去
年及建別物事其其切積る切者

成去く若年者ハ眼前物事ハ何物唯
推量及存心ハ醫者者学問ハ何れを療治
多くも是よりハ不切者之能自之を深き
老切一人一身小志ハ何

一見廻役は依ハ分又ハ店人支取人
老方没初別家仕者店取締またの
相勤之役や打くる事ハ誠々事及

其仁物もてまふなれと調致し操法世面
 改述し居るを付す一其三人と死人
 平和に治り居る初子細あり若酒宴遊
 具に耽身持惜弱を誇念にあふを
 高貴ホシシ又肉體商ひ利之礼を
 拍り居る礼を死人間以て慙成者も
 不景況を事と老若に拍心仰成飽欲
 金欲迷ひ又人の礼心をも有りた
 振る中下の上段者取宗とてきやを
 とて又人の死方と者不法と托る愛
 多し初心附居るた尤の具也後中さ
 段段に目附あり其心得なく其ゆり
 廻るに徳あり一人店々に見廻り其心
 得尚更し事右振り愛と廉也其心

園名管名時の大取締は生れあ
り公評ぬ及一午後、時却る好方
難儀、及屋一、以後、情を激中、如者
有る大取締者、か、りよ、好、る、子
迷、る、居、く、取、調、る、事、肝、要、や、り、延、一
終、る、大、事、及、屋、一、必、後、る、せ、よ、生、か、る、也
仁、之、日、又、希、白、お、い、ら、ん、既、没、る、底、に

相、生、の、礼、廻、致、の、事、前、よ、趣、意、は、得
一、言、た、老、の、考、案、と、知、之、一、美、徳、如

道、理、よ、心、付、か、り、よ、ま、ま、事、な、ら、ん、也

一、我、石、仕、ま、く、阿、比、呂、別、愛、を、と、る、者、も
な、く、又、身、心、も、な、く、ま、ま、と、業、一
其、惡、と、別、一、曾、く、依、怙、ひ、め、る、は、辰
多、く、石、仕、者、心、得、一、ま、ま、氣、又、た、る、ま、の

いふ所を其者初居店限り没る
才より仲間音物も其店限り仕

但し首條中店公親出りて申す

一 氏大勢は社内其流々寫實律儀
又、女妙才者見分る人分りて
を國不見不知者集り又婦成等
く之を深し者之流と深固縁

あり日本に神國と忠孝と續也と先
あり音より主君に父の親兄弟
不顧、是令く神玉事と上を公法者一
本の中季、高分稼のきえ居振戦
家杯は年季を公相知者目先の子供
たりとも悔く父配人店の人成之節下
の者り後、初め分る其志一なるて

なりぬ事也但忠心に厚き所あり主家
のほろと分たし我の身の事と其功の
取者有又我の身の事と分たし主家
のためと分たしよまはるも何のち我の身の為
と分たし一俸必初者其功のこり持
前事のみ相守自らの之候者もよ及
長及中自よ初進る厚く主家一俸
と事もなりぬ者也君とつる身と
思ふ及いふ論よ我の身とわんがをさる
其内よ先づ忠義と先づ一俸と死に
店取り人果進一上際相効主家我
富家といふ也其養を初一主人と
恩徳の初我の富人と初命の事と
其意の者なりぬは後用ひかめ

法事一己よき所を負たりとも文のよ
其志一厚く何事も憎むと分其用の
仕業安きと好者物く者疎の用よの
類も先分根氣の弱きゆと云へ
一年代其主人徳と心管は可迷心自
劣者之能人其主の志一たご志落ん成
及以臣主人平生の美行果しきりあり
時ハ主人の名代に立居るに禮の心掛者
なくして家法らざる事其家よ疎
臣之人有時必家を滅ぶりとの事
父君を以て作父常よ主人の難を以
心魂に徹し其志に忠心抽くる者如
只人の忠信に主人の心をあちやあめ
其意の平らむ時有志一の者も人

主人の進意を他中たは後并例とす
者主人を各人の中解る一因附有事よ
心得未だ毎家思ひ内法一象も備へ
又側成者初重之族主人の意向一とあよ
中振る一因者性於早進又思ひ必
家の礼を引出さる之定と心主人不言事
何ハ一親後者徳進徳言言事ハ
不目之在取扱は原是後子ハ親のたれよ
かすのさ一等一く扱又其事治る進
も柄るる安風徳ホ必用之我家の徳
を他取一其力も恥辱と象と治る
の妨と成其功盡く相成事ハ若く誤ハ
段に将事なく功さより解る
他より自然なは譽れ作く一なるや

又主人たる者貞後と云は後と取立
上は其者と善ま不らふ是も家不流
上と相明く善人と云ふは人の大徳の者
氣交ふ傾きと云ふは是進も自然に成
心得違ふもよく新免格別小事は云ふと
如前書親父子のたれは秘の意は云ふ
一人石はと云ふ實は取扱ふは其徳深厚
その事よそと云ふ家思顧る者ありてい
活りか

一 忠心志一 有者らも時とて戒め
久ぢぬ事有つは其者よ切と云はる
時の事相出は相心と云ふ者いふは
其方不似合致肯と云ふ戒を得るは
難有細得た者や

一 自代通勤多、同欠相成依我、家凡
同居及昼夜、在屋交、多多人業、以在
誰出初、今、六、七、事、辨、加、あ、と、の、辨、中
大事、の、控、引、尚、用、の、多、交、あ、と、の、旨、と、と、
通初、者、其、の、交、用、向、心、得、在、ら、る、際、
時、の、用、を、立、加、め、く、私、宅、有、及、人、事、を、辨、め、
私、用、も、物、外、の、使、も、何、り、て、自、然、の、主、用、よ、
急、り、日、用、の、為、て、よ、ら、ら、る、時、は、も、重、の、を、
人、等、一、く、右、極、よ、あ、れ、成、初、む、と、
故、今、の、心、を、か、め、き、と、彼、の、親、舊、を、
人家、に、住、者、及、其、所、と、恋、ふ、鴈、鴨、の、類、
暖、氣、地、を、あ、と、の、其、中、住、ら、る、と、く、人、も
妻子、在、り、と、慕、者、及、難、を、在、建、の、右、節、の
心、を、家、に、専、ら、ら、る、依、り、同、長、を、在、ら、る、事、

双方の便利をなすは人情も其内を然と
り且其法の費をともゆき宿料を他家
に家の事及格別し得た有事は通初
の者前記通日用の塩とあり其粒初
級を―他家の不便振と見るとは店に
為る用事も有る浦と推計して節の
高り賤を成すもいのも思ひせりわ
るく自家の管心深く成店に其も
適に教ゆ―まこといふ主用心得ぬ事
業余人も身同振るる勤仕泊り
番おも移宅し私身修むお成及減の仮
し宿にお成た多く事とありとも他家にお
ゆらん事の色を心よ念すぬき用亦さ
とも粒細なるを其身取没たりとも小

いふこと云はたりた人も後さう却る他の
害あり大給茂取身分も新法と
時ハ眼差出すより針あり心取思凡本
版取一同為る心得居る事

一 惣て同屋向ふハ毎日忙安用事繁ふ事
何れ也又何時多し居る事又きたる事
候令とあり大勢居置る事今今用事

進揚り候し由出行ハ甚不便之法ハ礼
一人素者一紙之席頭役節居る者ハ
為る其心得有へ事我他等ハ誰れ
居たる居る事其時相定出入候
其心得ありて候居等一且も供
も多し官抱置ハ将茶の物等一王
歩近一時ハ働く者何れも勤う候

すも之用と者何かに依り一回相探節
居るに私用と云ふより他公認するもの

らむ

一 奉公の甲は之を給金裁年中之用と初
事之別を致後と者日夜之象と換並よ
魂と入可相加候勿論之在るを云はれ
大給の甲は之を有るに依り法と身の程
をて知事一才一なるある法職人初何事業
之者たりたる年中休有るは福也其者
又とも甲の取高負有る大給取守云
人給と云候持仕忌書子の柄は別家の
も尚又之我を人にも入用其身勤不
日毎に別念心得や履くを年一也成時
冥理の如く星霜を送らば自分世帯持

たる初必家を保つこと何くもは若く酒食
遊無を費し其癖生涯の耽溺と
成る一則又自然好ひ先一應を欲を減
車にもあく隙のせらるる醫者業礼未
主人分辯をせし古学の貴も文法補
一つと成る一又公探車一と他はとも
を身方私用其身を用的に成るあり
成る事

一 見世子供大徳と有用向を時遊ひ在
之用抱買し何れも支々持た有る子供
可成用は昔は初りかめく何れも成るあり
た之伯主去之且在去は仕立何れも容
易と事と今平均一十年凡令接位位は
是一日なり又成る成る成る統一統系と成る

文と私用とを一時、其心得有る事
公用と私用とを一時、其心得
遠く之

一 奉公中自分商賣一切は同補事

一 仕分別家之相成りあり家業仕別
自分見世扱ひ當分取付方自家の
通い下取候。度扱ひ思ひは終り

仕分言家扱ひ急、服着由り不都合
之事も有りて双方端の素の扱
家も下有候。あ方大徳成
玉扱ひ宣事及取付、店
其通取付者出、出、若
差、後世必家、不
一 子育守公人思味、子供、自
間

けり下撰は相成扱は量入人等も
口文早延奉抱は為初者有又
以不口下撰は相成扱は量入人等も
此も中出初者有味は捨列は為
量量ありといふ人等も知る

一 主家と我の家國より厚くする者又在
お初も今夜の宿より下者も有成
けり内外に遠在る何とも首尾好初納
すむ事故一因忠信厚初は為
肝要なる事

一 都の罪の疑はるる罪人の疑はるる
一

一 店の人を能く初るる重き事と容易
代りせし役より初るる役は初る者

見立とてお代尚院居致勅納たる其
勅切よりして別家之侍奉足相爲たる
且別家と六法との家起之より其
一方に魂を入丹精致すべし但今人の居る
人差更一旦別家考ふる者通ひ勅下
既後之侍奉お代尚院居致勅納たる
二張のらへ川うまぬ有らぬお代尚院居
奉らぬ奉らぬ御侍致す別家とて六法
を勵まをへし然るを又お代尚院居
明くお代尚院居たるお代尚院居
勿論御侍其備爲り立置侍奉たる
お代尚院居

一 店新入お代尚院中病氣又老衰少
しくお代尚院居たるお代尚院居

余は勤中なるを思ふ時中辱るはた振く
評聞ゆ時、事の已らちもあきりと返り
富不用之ぬ者、心得茂し、一向は後
南人も自然と氣落しひきもはたあふ所
版行必家、不為之はた返故勤為事
あき、首尾好中、退後為致新中滞なく
勤初る振ひひて事

市書と趣言人の善悪の事、為文の
くや一と一回心得悟る

但老切と事、何と若き目多し付ハ
其味も心付老込なる振回ふものや
我今七十果と我ぬきと勤と初まら
て事、有るもの、係人のせ質もたる
年若きも一庸なる者、茂有及一際も

中々此の事く先づ半半分半分と
物の用よ之仕人と知るべし

一 忠愍者たりた自う其忠義徳らむ
主人初一統を治るふ身は其忠義を
交肝要々是誠の忠義の道は
我功と強し人を治るふ才は功と言
ふ

一 店師人支那人首尾能初納徳は
仰る自方支那中貸物に金取及
取及に金と相貸を給て仕はるは
通と事及何と云ふ事をも
者他人に忠義は思はるは
忠義の事と事と事と事と

一 主人代替りたお成御は
忠義の事と事と事と事と

貸金おも是は先代に借用ありと
付年賦然亦中出茂何れそ困乏之我人
因果の時ちそ之我を後たる御を海軍
名前、後りも我大方計しゆ其愁
なり、そを不を後之き時節と云ふ
貸金未取大取纏中一決長成者ハ
何れは思ひ及不若し相後人迷惑は在
取端相後言、貸金に限りたる事、ゆゑ
何事も以て、者困るるは、諸事野
一、若くは通家、大事、能後者、不
高き、分て、自然、在、後、は、家、改、
拍、ハ、勿、論、世、間、ハ、父、死、辱、の、事、上、後、の、者
思、必、に、格、長、其、家、長、久、其、基、は、世、間、ハ
己、も、恒、成、事、な、り、也、我、家、に、以、後

一 修く席に取られたる者皆より不得而論法
亦仕わらざるも是肝要に在り
不事亦多し其意に及らざる目眼凌ひ
思成事と謂ふ一尚教十年分事と
相勸者首尾能納れん主人掛
てりしや

一 忠義と盡一たる者の末と至るまで
忘るるは後一

一 本家至家の恩と長く亡却せざる
心と為す

一 親族分家より代別を前書し致す亦
永久本末賅補は仕は時と抄録する
間物為く成去之思長き智深幼考
後生へ

一 親子兄弟の倫君臣は尚主人と
 新右と云ふ交わりて忠心のぬりや
 古店新主人の昇進及老の衰を浪
 こ不得おおく勤む者も忠心のその
 都るが氣候初事あるは徳事あると
 大勢の中を心得遠政族茂物事
 史も流るるあてに都る暇なきは浪
 同補却赤の跡方もその氣候者又
 用の場茂有者や且中迄あると
 倣初むる忠心の用ひの事なり
 なり
 一 店師勤定之故自ら取極店なる
 帳記し余方伸令るに同を懐友
 別長後其の仕法いふに其事と扱又

減—此店より、融通資金と云ふ取
引の貸進も有物^{引込}は実をなす所都合
に事有物之心得有べき事

一 親族長をりし店に者投助も物
ありし店移入持し店合く出稼事及
伴令に心算々上々金々付々余金々
置りし心得違物ある事し其店も
尚し備令あり—其余々々令に此山且
不^レ合^ニある、改革を其又、仕舞
波^レ損^レ免^レりし店持長、此所事
本店のたに免勿論あり

一 主人若年たり其心算にあり者、決
事云附ふ本人が事後我お父上
府に事及中家の事十五早事より取

其いひ尚又賞爵叙一方調亦万事取
扱

一 至人代替相成時其家風親の仕事
勢の當り多し年性も先代通も系
らぬ事有者也又仕も先人の仕法
心持切も其通もいぬ事至るに
因師通も能くたせしや子孫も其通の

遠くも同じくして其條子の條子
先代も相遠傳も逸くし其如くは
尚も流世も計ひ可成時先人の
後身一板行定木も振も系らぬ事
我の若年名家督も今も今も是
石仕皆子育も者も年數も都るに
業仰もあはし所も同様是れも

在る者もなく治り依依一匠者亦に
容易に事不申自然相遠有時其威
光溢くを迫不拘我存坐中我依中始
有明補又素より中よりせも致る是老
功の故也末世彩色相成老人今時を
着るく耳の振相遠坐る事も何と云ふ
と況察ふ小且召仕と者先軍と成時と
一匠者を一の我依坐随ふ心起其前ふ
自然不和と門ゆを去くは後主事大切を
心得居仕る方と深く思ふ思致一人の
不宣の春述ふべき松平和らゝの座中坐
ぬと諫言致へる事肝要之は後
主従一同心得へる若し書西の意よ
心附く事思ふ人き事と深く思ふといふ

一

一 信人 謬言を其最初には考證者
心得其言或用いふとた度きめて其
扱むた或有事に惑ひしるもの之候
必謬言を承るる所行要之

増補曰

論語 漫潤シニシ 僭シニシ 層シニシ 受シニシ 懇シニシ

不行焉可謂明也ト 已矣ト 何そ
水の物よ志所込れよそろくと 工ト 是
テ 終言と有り 徳者其終を成
不覺ト 之終に 固る也 又 俄よ 巧
不法を文たりと 善と 是 迷よ 訟ト けら
る 其 澤と 善 ぬ 紀 在 暇 なく 終
と なる 其 けの 二つと 作用 せら 終と

交する其心明又をまてり見遠
の智と是を造り難き法あるを
能く顧考へき事

一 年代共別家仕初相商と基くを基と
す其其後會合に用前々の志を商
かりて出外不宣年竟布店を歸す故
別家と在借成字を來て再歸し
後不立作の業別家後志布店より
今も融通成る事と心得る不那
合と許し布店をかりて出外と爲る
時必要と名相成却と相續方保不宣
為るに得心得置しと又布店因縁世
波乃交事とす條親族分家前書
了る同極事

一 年代其後之世に於ては、番頭相初る事
然るに、石井者も初、役目と云ふ
叱戒言事下りて者、悟て其示と文
をきき、勿論の不易成候、大に役目
對し、其科も、其來の所を、其科
其場、至批判、心得違ひ人たる者、却
て之、悟と云ふ、辨なき者、其科
と云ふ、番頭に用と云ふ、其者、其科と云
言事、若戒、不復者、同及相後と云
再身、其科、不用、違打擲、不其、其科
たる、其科
一 席邊上役之者、其科、相用、其科
勿論、之、不用、違、打擲、不其、其科
改定、其科、其科

一 喧荒は論は交る政を處うははるる事
若くは振く彼れ又ハ外事なるも遺恨未
ありて交死人に中出刺と交りて一私恨を
とらんとせざる事以て相成るるは
むし

一 一人不可本河りて下もたを考ふ事言
物もふ言仰ハ先ハ其者寫と思ふ事河
深く忠義の道と考へて一不用か
因心共生一又ハ打捨たる意志一
言一危角室家と治る一人の事と
備之家内一統和を治るを収るる事
出来る振牙ハ方なる是と誠の志心と
謂れりやたる意まのこは一且よ名
持るたはと道理なる忠義といふ言

爲るは何れも我思ふごとく其家と
爲るは肝要に心附く

一 父祖の死後其子其女を果言する事係
る者言追言又時道具其成へ
然る事又仕たる者よ切のく先之の言
事と打く言言する相和す事や其度
ハ元々の事又ハ切の事杯の中と爲す
亦た其相父の家と爲るのありや
然るは後中置知仕たる者同心附く
は後其家人相成る事其心は有る事
亦一系治る人たる者我親と爲る事
自ら其事其心附く

一 御屋浦方出入町人其父のたのふ浪
費ハ其時宜き事其後其父を以て

追々自分も後へ先様と看板しり
我々慰よ今浪費ハ禍の基と成
今先存に祀走したのあまは先存も西か
く終ひ其事の役も与るを我々
遊山心の中起連立我々先存却る迷惑
思ふと賜語りし節にお留論いいたるを
有ぬと知る一在り先存先存計は
客と看板しり我々の奢りめ多く者
及心得る事

但し後先存の御意のためよこ
ふ事あり面おひききり又己のなく
さみより乾りしと先存先存却る迷
惑成るちと慰心し

一新観の外高貴と名にあり人新業

る素人及附後年代其仕方ありし不
相方ゆゑちりて其都の實之を爲く
容易は仕法不相似且其附後年代
其の若略計より人威光あり及再帰
不脩我ら物に我ら物に換はゆを其
客人の事ありて一人の困るに凡
く一改良後記録一巻に記有通其
前の時宜きは法に治せし節意より人
ら心得よ印は採て為儀るに之を
之人をよもて採りて其心文に從
信ありて其後意より一惣眼形の中
少増むる事其有考や
前書に級後年より考見るに附後
の代に教ふ事と悟れしは二名の至

且我輩代々福千穀渡世世々自取取
然る思人子代々皆子之月の子は子同
之人有り師運を依る徳事若くは安
之に従和合する道理有り都々之人
は教事之心易に休之人上教事
去之し活之言を教事人上附置た
あゝ未訓深も存之人上若くは
事を急務有る都々爲る不春
人上教事新成り何事も心
時、鹿々ぬ事も有る浦り
る及去法其職者人上其増
補之事早有り何事新成
重し事容易治り何事
丹粒不改之成就難成事

但在新親出店之初所流りて代終令不先代
より坊主の格別と云ふ事、格番と云ふ
流りかきと云ふ事、扱又先年五所より
浦奥油相始り初め取り製方程と云
事、後に行能と云ふ事、其節五人を扱為
製たる所と云ふ事、もなき業と云ふ事、其藏
の老か坊主と云ふ事、扱又又家内在
我を立不云と云ふ事、其時針と好人のりて時針
の細く、自分少と云ふ事、之をく物と云ふ事、其
音より空の音を待と云ふ事、と云ふ事、
是針の出来不と云ふ事、其藏方と云ふ事、傳
受いし事、其湯の初と云ふ事、其形と
の所必と云ふ事、其秘傳と云ふ事、其音位と
り由是事、其時、其能と云ふ事、と云ふ事、

又ハ物ヲ考ヘ

一 四月持傳ハ流ル店ニ成平位宅ニ
不仕而ハ何トナク別心有物登ハ暫時
於テ他向段時ハ住居ニモ出入の違有
志ナク心附之人ニ奉ル御店ノ同
町寧ニ禮儀及座事

一 右仕共且那ニ供段時ハ流ル人ナリ供
不仕ハ番頭ニ供ル御人ナリ

一 御町内 御仲間 御教中 御意ニ方
居店為禱 同店々

右且那方番頭方ニ代流途中出寄
御町寧ニ禮儀及段干御場所又々
御事ナク加むりハ其座事不苦目礼
又々ハ不流事

一 丹羽先生の御遺言に、先年、今井氏小僧を
玉老且邪に供役十ヶ年、外津御勤居
に従ひ思ひ人外に居るを、おもひ持て
しるす其金と見、俄魂動す、我おのどき
年、或も不吉の餘を、取生、涯苦しむ
進も、家、私、成、大、令、海、者、何、ん、能、も、け
今、子、持、迎、而、之、に、何、り、身、也、建、へ、と、出、亦、
を、面、の、依、之、つ、井、氏、邪、に、事、及、又、有、り、以、以
其、存、傳、業、を、今、を、看、何、も、後、下、を、公、仕
右、取、人、今、所、持、後、長、多、く、ま、と、保、暫、と、
左、而、也、也、市、場、混、雜、に、お、り、我、途、中、に、
今、を、移、り、捨、つ、る、旨、其、所、村、役、人、に、居、り、
言、れ、廻、状、お、差、出、し、た、と、其、誰、所、に、た、る、
も、不、申、出、し、り、て、落、し、人、な、ま、り、扱、へ、い

我々物よりの世間廣く所持仕ら由る
至極の極を極する事も有る間津波の
逢ふ人々油断許す成む一際不意に
勿論なれど心得了置首ら満ちる方も
先年太等者在中居も太日依る事生
寫實と云ふは如何に依りたる不動故の
眞實と云ふ也右寫實律儀妙計の志
若く見方至後く才一と記すのみ

一 年代衣類忌用と定る廉

一 修者一統錦被相限る事
他至初其用先者一修者絹細お用
少く其時寫素履一修者女房お用
修者初絹細紋付衣類上下お用
帯段二修者衣は依り衣類お用

一女子御武家女子の字は若知御共
御面浦様の家風はひたひた用は下
店に相下り少知の若くは通當家様
いふ用は下

一平生男子女子供衣類物と綿波に相限
意用は下也中一我知自の御縁
相限は下は心附也

但此糸絹布市法度
御大石様御分は御神に申様も
用心は下不相成者交申と御大石
市法度也

一主人分交付貫の糸用波は下は御共
糸は家へ致は下不相成事
一糸は去本拵限は下は下は下は

增長の事、男、腰物、女、貯金、女、
高料、櫛、芥、箸、木、相、米、少、い、事、也
何、益、成、れ、余、不、相、當、く、上、と、云、ふ、必、是
流、高、料、の、事、不、相、用、い、は、辰、巳、年、用、是、一
右、席、々、今、改、政、申、附、上、は、道、前、也、通
百、坐、相、守、す、は、御、時、所、柄、は、思、召

御、大、様、様、方、茂、御、家、の、事、奥、様、進、御、後
は、遊、ゆ、由、我、初、下、賤、身、分、別、る、奉、公、は、去
我、後、上、不、相、成、候、勿、論、其、心、得、分、は、皆、々、
肖、冥、理、乃、公、公、分、厚、相、承、は、相、信、可
申、上、事、

若、書、し、席、々、右、仕、共、公、色、中、事、何、は、
主、象、深、相、得、諸、事、論、委、不、相、成、は
換、肝、要、た、事、

一 中御女其人依其女其人の上りるの志人
有る人の緒方や依るに客方近くはゆり
前記又いふ代る供とて主用と他出
近くゆり見世祭用と後また初
右より女喰事ありて其西は下り女居
深心と厚く好居く者も我れ初も右
ねた人し喰事し我れ後を不は申ゆ
候よゆぬ者及相楽と成り物と付は席
不はか

一 奉公し身ふらるる食好し成り生計の費
取事し初るし當時はまの物たり
何とんゆりて其の事と菜好近く一日
必は又花費の二々年合をらるるみお又
おまの合をらるる近く世帯持

たるよ、米穀米穀も新にも、
地中湯浅安徳海も、
親子と扱置我も、
玉思ひを、
も、邪と怪り、
心得を自然と、
不心附終と思ひ、

一 客来く、
向湯茶用ひ、
中心得邊見世、
皆中客に出し、
酒饗茶出さ、

猶此一册我有り知らざる事と思ふは
心得違因縁を初一同客来と銘ひし事
よく記是振と我を為し交々其の内客を
言ん—其方をも訂正し食意—肝心の
内客を外申し心得る不無其旨と括く
道理なりとや定し守業返の業を
湯杯と好族正平時く約束—刻記す
運滞に載己の家業の事—其間を去り
右客湯に運利不取思ふ—是月外
心違ふて貧乏を括く之を其成り扱又
内客ら酒の同夜更不渡時—子供更
中座—其世話仕り事—
一貴族群集—其時其事と思ふ
座—依り教多客其を銘ひたる事也

見世を胎の成世は交混雅と目め
事よ此の交混漢あるは業落く見世
胎の成る遠なりこの成る人こと
好平の成る人——許李志と云ふは目を送り
大地震が有りふが大時化有りふ何れ
持化く後者者者焚く——に今指し
指の成る人と後いつても道に成るを得
富活よいつの身の程を去ぬと云ふ
後日自分世帯持親ある何に又の成る
程の中へ成る——事、故、勿論家族を
は沢大勢あるは、女房もをあるの程に成る
ハ、後成る名は自然病ありて、後、成る事
ハ、容易に成る——以後不心附者性、必、後
悔有る——扱又る名は、道、今、の成る、持、事、

く商人の日々の稼と云ふ大徳が扶助を成
丈に勤るは仕家繁栄の御恩澤
と蒙る身就事なりと云ふは
高し剛姿源の内家大徳有徳を
徳にお御し辱れ都る人々未の宜し
きを不致者あり今人の仕身
なきは徳の又人をきふ振舞へり
善悪の車廻り人の本と思ふは
我が事に成る早し

途中 4 丁白紙につき

撮影省略

182

如：...
...
...
...

礼作

家訓永續記

男女身分脩方事

八



八 目錄

- 一 貞女之道事
- 一 石室少々半途成事
- 一 口外成如多事
- 一 色欲之事
- 一 邪淫戒之事
- 一 召仕如之事

- 一 年代女房店と同居心得事
- 一 丈出入初妻たる者出迎事
- 一 出入する者娘扱事
- 一 舅姑可心得事
- 一 如子、出来の急が少く困心の事
- 一 番人之事
- 一 年代共子供有公事
- 一 同女房子扱事
- 一 如房共心得事
- 一 年代使婦も途成たる時事
- 一 縁寡を憐れ事
- 一 色欲戒可心得事
- 一 男色戒事

一 女は道貞女而更不具とく生涯又
其人切定たるもの是と偕老因究の契
と言ひたる深因縁は終之を免れ又
を國者く其命有て其初縁人相爲と
又互に兩親兼知のと永久安徳と計る事
故年の命代おきて冥位ひ人よ貧福貴
後之を訓何と云ふ各お爲と名終姻と取

終不足人倫大切の正禮あり叔丈婦と
相成ふ不淺事なる親に茂語り難事
とて語り合増る生を何とせむかか
と成丈婦二世の縁も申程睦補大
事いしく丈并と勸之妻の論と
締男姑と大切はく女に界の家なり
避知時、親はひ中丈はひ老るふふ

侍し習ふて生涯信る事く萬一
又密通おたかあく其間男と備ふ死
罪よ行小重き御控へけ及理と糸
へ時、男たり其心得遠く其信事小
一妻たる者不幸少くて半途丈後者
寡婦とあるふ女の操るむる事な
まし年齢もあむ親又、長より者をも

と切あぐ、時宜き、再縁をなす、授命よ
以右再縁、女其家より入史ある、先史の
追善墓系も成る多と、他家に嫁り、
心中、わらぬ早、今、命日とて、粧をも
なす、まゝ、依、云、是、罪、先、夫、を、儀、に、依、る、事
少、て、悲、し、む、事、なる、を、

一 思、ふ、勝、た、た、る、人、に、格、別、凡、下、兼、合、人、性
を、察、する、事、諸、事、に、外、成、事、に、著、く、外、難
相、成、節、法、く、當、る、者、や、先、予、と、女、房、身、持
悪、交、れ、其、之、心、思、ふ、に、見、る、事、に、
に、外、な、ら、ぬ、又、そ、の、子、流、集、に、内、心、難、も
に、測、る、事、に、中、生、を、成、す、所、に、難、用
存在、の、事、を、妻、に、成、當、る、事、を、法、は、し、ぬ
を、交、事、と、ら、ぬ、此、者、や、又、其、人、に、も、別、事

与男交商の所もなき是不始る其財不成
類に依る妻たる者男を付夫の心穩ふ
なき心と云ふ之は余人の傍極ふ
疾の所も夫の心不降らぬ其心をへし太
婦心極の事不浪何事にも其外成衆
心中修羅の如くあるも實は心と遠
見は遠く後日内心不事も有る友

寫と考可嗜事之

一色欲と初之疾は淫濁陽不其如あり
云かけ事先の如く俗男を起す婦可
不寐ら其女を欲は稀成座一是張湯自
然と道理安と不審夫密通其俗男
介起ると中たぬ其女身の行ひ必遠者
有るより其女は道徳の道徳なりと云ふを

才一あり

一 邪淫とある時、必其家滅亡する事を得
る。是天の忌終ふ新又人の思ふ如く
又一家にまゝして、尚又人の書と記す
時、天罰道かゝく身とまひ禍其父母
及ふ其亦、先祖を忘る家名と森
末、一子孫を思ふべし身不徳と行ふ

累より邪事記者ら曇通まゝとせら
るゝものその皆邪淫とて天の禍を
祈やち孫と事なき、武家の亦の絶たぬ
一町人なると大方滅亡を、一依り邪陰
と志、心の鬼と云ひ可畏を身より
茂せよ世と云ひあま治りたりとも我々の
得れりやなりんや

楽に備わること生るる有るは妨に成るる因に
及身方の治り食事も亦も務るる不成就
入用為す少く完全な残れり成るる因に
御張成事深き之——自然之に成る
持同居る身位に成るる全其主たる
完持成るる怨者何れも中々時美不
智速く之代た善方入用多分中々行
居る事必ず家身上自然に成るる成
居る——別完一家善方容易に之を成
ぬ事業の考ある——
御式家様より其一家中々入用は是
少由町人収納不居身上之に成る用事
時行居る事眼前に定るる双方
辛抱——子供出生るるも養育月快

中才不累自、かゝ兒也、仲令、よぬ未の樂有
作、主家斗、い専、事也、や

一 父上の作文、又の外出、何宅、と時、妻たる者
送、了、途、へ、の、を、澤、大、切、あり、との、事、一、け、後
化、新、今、ゆ、り、て、妻、の、思、い、ぬ、い、程、を、い、ん、と
い、ふ、を、い、は、な、く、共、に、何、と、か、く、い、う、ら、ぬ、者、と
易、の、書、よ、其、書、よ、入、て、其、妻、と、い、ふ、也

ぢ、り、と、こ、そ、を、左、室、又、坊、う、う、こ、本、の、世、を
奥、方、加、南、部、より、出、向、地、に、荷、物、を、多、記、
は、彩、も、る、者、を、伯、父、の、家、の、寄、ふ、所、と、す
者、也、久、く、江、戶、迄、運、る、ゆ、り、と、之、程、養、父、又、母、
居、た、と、い、ふ、打、柵、其、妻、ある、と、い、ふ、家、も、誰、も
居、ぬ、と、獨、り、と、い、ふ、と、信、の、志、大、笑、り、たる
よ、一、是、を、察、する、よ、を、承、に、余、を、何、宅、と、い、ふ、

妻子の標后を樂も人情の然らざるも
可なりとお惡交不后合及心根よきも
いふこと終ふかくいふなり其云悉少て
其情しを存すへ—爰と名文海を
初書きたる者早々出迎ひて後事之
一年月出入者娘を公人日私小形と交
給合も不定石仕ふ初其者室家り初ふ

不叶節一應仕付る、格別羞交叱戒る、
不宣方のを公人い言人氣入る者、眼
若き又年公人も流る初為る時、眼取双方
兵勝手相成る事と右出入の者娘未初
為るとも其親たる者眼取亦出かくく
思ひ女子の心校る時、不宣の事もいふて
不宣た初と初彼是利害中い其言ハ

云程のゆ遠二年入及不能伸一其その
不愈付其親も迷惑せぬ所なり
一 舅たる者嫁と慈しむべきは血縁と
分たる實子と遠なる舅女の別は
正妻し心易立の過ぬふよなり 妹舅の
禮儀をかく慮るべし

一 姑たる者因縁し奉る年養子不慈し
むよなき是又實子なる所なり
心易立とく年の方が軽平の本は
根よりをせ姑より茂年姑の禮儀を
正しめたる事

増補云

舅姑と年家の間柄危角あり
まことと通例とを然るを

能事少之悻并嫁も亦不致事一食
なりと服を訓しく交れ義の原
今時、及初も禽獸の所行何れと
御疑ハ何下福を譬ハ骨肉の兄弟
も亦余り意を濁くハ不宣嫁買の
間、何あそハ礼文を為すこの法一方
禮義の原を正しく令くするは親
なる者心を肝要の事云
或人云

女、陰より陽と誘ふ者之性を
く性時を生ず天地自然之聖人
興く正道を以人倫と立禽獸よの
行ひを分ち給ふ是人道と云つて
禽獸も亦入るは社人間なる也

是を以て其廉恥の二つあり
者一橋良基公の作、常教を以
以潔己治政之要、雖百術有不如
一清よのい一言を以て盡せしむ
辱として廉を守り、人道を失ふ
ことあり也

一女子、粟の急うふくは、
既長、随ひ其両親、少長油断なき事
本勿論、乃今、近き文と為、持、
法、後、一其初と延、
ゆ、
一

一若し男よ、
番、
身、
一

むらさき時ハ我身を顧法事と爲し
辨々松竹愛之

一 年代丈婦之者若くは途ニて丈好ま
又兼之先之れ初少成子供亦有公尚文
深切に取扱ひ養育行居る事少し
其本

一 老ら素なく丈おしくて親おく

老ら子ありけ四ツの者と親密孤獨
としそて困窮極む者也有類多とく
有ら勿論村内町内之者たり及深切小
施しきし言是陰徳の事と之

一 身分因捨る年數面体不約合者
色事云々を其婦人容易に兼之
此老も何れも物を持金剛と光ら

世に時、常人の不承知たりを其利益に成
事ありて、親を以て之と承知する者
是等、類其理と推せば、今限る國
媿あるに等しく、高貴の沖方の格、門
町人杯の格、格如進茂た、安少く不樂
者、何れも却る務る、事ありて、世と
之、智之能を別して、新馬なりといふ者を

道なり、由人間の果る尚、父和入へ、事
其身如何成、格を以て、其親より、たの
心の者もや

一 胃色に、養交戒、事、右換、義、不、實、數、重、
向、る、之、言、人、交、配、人、不、怪、所、度、た、之、事、
事

途中 4 丁白紙につき

撮影省略

古略百類聚抄卷之二

礼帛

家刻水續記

先祖祭之事

九



九 目錄

- 一 先祖祭牙一之事
- 一 年回法事及忌日法事
- 一 同舍法事及寄仕事
- 一 神佛信心及方事
- 一 宗旨定有本
- 一 本尊亮有本

一 母公御死去し初教事

一 江戸より死去し者扱方事

附右席之条在

一 我死去し初花席之用事

一 同供方之事

一 蓮巻扱方之事

一 我死去佛系事

一 毎月佛系之事

一 佛事ニ酒之用の事

一 持佛位牌祭方之事

一 新年塚心得之事

一 同里方ニ宗門用方之事

一 親類附合之事

一 廻縁心得之事

- 一 所先祖日柄身方徳方の事
- 一 他家に縁付者心得方の事
- 一 佛道への人の氣を和らく事
- 一 我死後佛前なる家割下積事
- 一 葬式法事の初末用物事
- 一 日親・羅尼の後身持脩方事

一 先祖の法事・氏神と祭の系々者
 分てし事勿論あり

天子が軍又は高貴大徳の靈は之々
 神となり佛となり 諸人を敬し 初念
 する時ハ靈騷る加護ふ郎る者も有へ
 一 我々の先祖ハ之を位官者も
 何れも是ハ他人弱い者何れも他人

如護之身を由りて唯我々未嘗とせし
儀守護之身を者之依る子孫を看心祈
有時二随ふ我々先祖に祈ふ道三寸
たる事、必利益靈強有る邪あり
秋叶にふらふ勿論聖目先主行ふ祈るも
後世をわすれ免さざる是先祖成の意
ありと知る所、右祈念法方只耕作

多利益なり又水行ぬ食ふ若くは
土も何れも其祈事、後世聖に奉
命長久の祈事一の事とて先祖に
祈らんとせば先平身持たぬ
家内和合く家業、積出、其と
祈るは是父祖の孝行、道及先祖の
感徳有る、其好く祈ると等

都々神佛と祈らとも其意なら
ては後一有より富貴の祈りて得
かうきものや然るを我先祖大切
墓所位牌不蕭略とい一年忌
法事と爲り今限と費他の神佛と
供一を略と不厭其詣降一六上人
亦借立日夜供物と後或は行お身
と若し我勝手形成候事後れも
神、非礼と云は神佛はま可祭方
の祭と云給ふ其鬼山何たりて
祭六端ありと兼、即る忌多事
たしをな法々が先祖、其多祭ら
ぬ時、誰を可祭不以後深可
心得事

一 先祖年忌法事急ぐる松心を勿論
あましくも知る子輕よりの親親身事
の老進より物入落す松針ひしし花
葉ふ落る却る先祖懐ひ給るる急ら
ざるを肝要と心得也

一 先祖年回一ヶ年何人相當り少くは祥月
早きに取裁一ヶ年一度小念法事と仕ふ
毎季正月朔日年回探ると其年分
相調りては是急改り也事

一 諸の神佛祈みたまふ漸かきまり祢
佛多く祈置たる間を仰ぐは福也
又一と果報定座と侍た交るる事
事多し類多しものごと者の下行也
右心改りて其業体稼なり

三願けまゝに福を求むるの誘ひの如き
者ハ隣の内ふとて之を神佛業詣り
法名願ひて我家の奉に跡ふなり隣
の用ハ其時限はけハ世法如く安
登ハ勝負事ハ勝敗と祈る其向の
負者者迷惑成屋ハ右振成礼奉
神佛文にけり只此五と感應有

屋ハ我ハ人相宜仕合者ト云ふ迄は遊
遊ハ指ハ仕合ハ仕合者なりを程
くふ實ハ及遊遊するの誘ひの如く是ハ病
ハ初信心を色いハ遊業用ひて遊ハ病
後ハく相為の業を用ひ醫者の如き
少ハけ其と云祈ハいのと感應の誘ひ
有ハ信心を色いハ業用の如く實

竊人の所さらんて之を以て六條時非常
の弊一なりて時を以て其の弊を以て禪
身と入候約一なりと後之を極く所
差支なき人心を以て一は世よ石匠
業有る所なりは之を以て

一宗旨は祖師法に其教有るを以て撰り
他宗と持し又他宗は其依り

形なき寺は宗門に及ばざる之を以て
浄法を以て靈場と名に好るなりは之を
通守と名にす

一本尊は其宗門に及ばざる靈佛
として先祖持来の外持佛に一切
間補惑ふ時先祖心よ不叶なり
なり

一我母公死久火葬亦以骨揚し初我亦羽織袴着用する骨拾はる事父と大に此立役は母親の骨拾はる事縁たる者の持前し知已の袴羽織着用するに任又い出令者おもむきを極致せしむるに孝心と通關たる是不埒と云石根成心多かるに善事支連する旨悉し此をなす

忍令あり跪足と成信る取扱はは親族も氏共我一同立身は事及我を己よ何んか一統は我のたれもたはるにわいと巻安は御みたる事にも多し新有今思ひ出さるも不承の辰忍令事と云取たる一大事と仰い世間若御傍ふる拍去より事註用と出さへしと体派

仕の初裸に成らぬ論大體も傳ひし者有
しも我を人言扱ひし心得を以て決り計
ふ一前書又上作之類一類一又小兼
る處より事小可く人たる者其より取
大切に場三之善賢賢然りと有らば
者多く取扱行居りた其事其ありの
あり孝心のたれもねぬ其御言深

感守の巻一

一江戸に死を致したる者は学外以て少く
大衆皆しく一國名を送るは分骨
を用齒骨一國宗英寺に納骨致
し分骨を宣ひ言は古葬など切方
に成り扱又由由に骨送る人學人
と云持系に仕途中人は雇骨用を

江戸右左衛門尉人ハ以テ京中森下ニ
其ノ家ハ江戸右左衛門尉森下ノ一ノ家
空官葬式改葬

一 前ノ授法江戸佛檀門出系記其ノ
江戸一ノ家ノ右左衛門尉ノ通一ノ
宗英寺ニ納骨ニ仕ル

一 我亦法在ノ為ニ国宗江戸右左衛門尉切
附ク通双方御寺ニ於テ外ニ坊宗
江戸ノ共ニ仕ル

一 我死去仕ルノ御先祖代々ノ内ニ此ノ日ニ
同日ニ仕ル事ニ其ノ右左衛門尉ノ一ノ
死去ノ御日探遠不都合ノ事ニ此ノ
一旦ノ死日相用ハ後日前ノ通葬
一 我死去ノ御先葬成葬式必用亡父

の姿をみずく一水色より其外枯
木の衣類一切揃り各々あり未昔の
四方より云々初撮りて其面白き人
一玉沫浴をみる者も白晒し線下
帯男女十分よき人へ

一我死云葬式は各家守り先供は仕ふ代
一此者棺の口面は附添相送り之佛

寺より改仲く寺院方頼より及江戸
坊林寺山等仲より御導師お送り
火葬場は、徳成者より人焼くまで
附添見ゆ言ひ成所要と心得る
骨より家の内の佛櫃に備置念佛
唱へて関宿に送り一彼地より棺
葬式是又宗英寺和尙門導り勿論

高升大寺不教よ不及事

一 園名之蓮臺持子海く他系の用

小あゆみ然し幕打未定用布施物

亦お嵩小物をし我施杯を怪り

て只元業と一断る也

一 我死去忌日奉回す初ハ拾別年迄

度く寺系不事

一 布店与是述又玄公極日扱毎月十日

宗英寺と合定元納年々以兼

御先祖方祥月二日上代由人有

月ハ初し佛の日小佛系之仕あり月ハ

是述し通十日と存止是又我死去六

十年之間我命日与是其後亦如通

後し他月佛系日書出し置候し

一佛事振舞之初酒ハ一切中開浦キ
付長手前方却部惣店一國法定
へ一之来禪宗ハ草酒不入山門
と酒ハ不用宗旨也

一法之先祖之靈祭ハ子孫之者没
勿論王家内持佛位牌祭置ハ我
家之祖代ハ末世迄限成未録付一

以家之相果ナリ子供百年迄祭置
其後ハ海拂下他家ハ付ナリ者ハ先
方世代ハ切リ方里方持佛位牌祭
乃浦キ扱又年嫁ニ為者生家ハ
如小相果心ハ追苦ハ捨別能又回向の
心之ニ孝心ハ授存養家ハ我里方
位牌祭置ハ心得違夫ハ相商ハ家小

位牌相立有之、夫、長方、他家は、此
祭置、心、其、靈、魂、心、不、叶、故、且、
子、孫、者、祖、父、義、相、尚、後、日、再、拂、方、不
心、成、一、古、号、先、祖、人、不、知、及、以、行、
跡、亦、以、法、名、亦、夫、意、以、一、祭、家、何
所、事、也、夫、縁、を、事、ふ、月、之、置、方、他
家、位、牌、と、重、出、自、然、成、行、等、一

且、家、先、祖、對、立、礼、之、展、末、世、心、の、身、
依、く、先、祖、代、々、并、子、供、位、牌、亦、持、佛、
一、切、祭、乃、安、事、神、佛、非、礼、と、不、又、夫、
魂、祭、方、大、切、し、事、及、世、位、牌、置、事、
慥、り、て、先、祖、進、若、行、佛、心、を、事、
也

一、祭、養、子、并、嫁、子、等、者、養、家、と、成

家と定る事勿論及養家先祖祭
行事亦一而して實質親を養父母と
重く之扱事や生家之主と其相續く
者祭及縁を云々と言其持前何れ其
軽重と深考應事

一 嫁年其家宗門に入候勿論我々
軍方之宗門一切用ひ申事

一 廻縁は後江戸より大分町附合不仕田
舎より足牙松他家に付者縁と云
二 付附合歳多ありて玉縁と廻縁の
差別為心得申す玉縁の方其家
血縁をくは成り遠なり廻縁の方
縁と云ふ事也其方と厚く玉扱事も
有る節遠ありは軽重と申す

若心得遂改時之先祖對一誰也
事之如之

但廻録中ハ聖ハ足牙者一人ハ
某家ハ耳之入ハ他家ハ片月た成
唱足牙者ハ其七分女事少
貫文乃家ハ對ハ六教者云少
何ハ左ノ類同中ハ廣附合

多ハ切之ハ足牙不多者也録組任
附合貞録中ハ之耳廻録ハ初分對
部ハ附合世女方宜事ハ以ハ後考程
少ハ才ハ下層ハ國編出ハ後者ハ前系
又等ハ之事ハ深考節遂ハ廣不
相成振了後ハ

一御先祖方命日ニ媼事也信事牙之

然るを精進過者に禁むる房事
と犯るるを慎の如き者ありて
婦事と慎事一庚申の夜とありて
言羽之夜と少つちと云けり
後時ハ其子盜賊あるとの教由
御社母様度々戒むる事已得甲
子才之扱才六扱別る女月障七日忌

三取慎候勿漏る若其内犯時長血
白血是と常々と言悉きるが崩漏
お成事為屋一由序後時ハ百日之間
是又慎事才ハ男婦事と皆徒
而して長事致たかましく由戒有る事
此等ハ一房事少く起る事少く
多歎小由進治男よる起る者有男

乃者性乎一自然女中起極成婦人
ふまは甚る来々事一急度暗一丈
婦平生をり夜をるる寢る事不方也
外自後不可言別く小床浦ゆる婦なり

一

一我姉他家に縁付子供二人持り死去せ
らばたり年廻りは尚方より追苦法要

勢ひ急々其更事らば拙者意及我家
相苗の年季法事相言り交り里方小
おろく別は法政多し物者不所在は不
相言り外は其法共甚迷然り皆は所
父母の極として其理に服したるに他家
に縁付たる上は其妻良家の榮と了り
勿論あり

一 佛道の法人の氣取らなく能教あり念
佛題目を唱へると極樂往生遂ると
の事。正俗は後世を教むと言我々の
後世は我々の孫や子孫若くは成人成時ハ
親極樂に至る人ある時ハ其親地獄ハ
ある所之依る親の地獄極樂と界ハ
互に行ひしは有り以是孝心深き事ハ

身持法固よき事肝要也

但此條佛道極意ハ心得ありと

只孝心導く道理と教ふもの

一 我死後佛前にて經文念佛法を稱
号したる及希に我々の家訓に永
續記經文なり佛前にて讀むに
亦ハ勿論心有る代其誰ありを不及

を多量に讀誦致し一在家訓記を通り
佛檀戸棚に入置おく是なりを讀みお
めくは是主家のたは其方たの實體
たる一

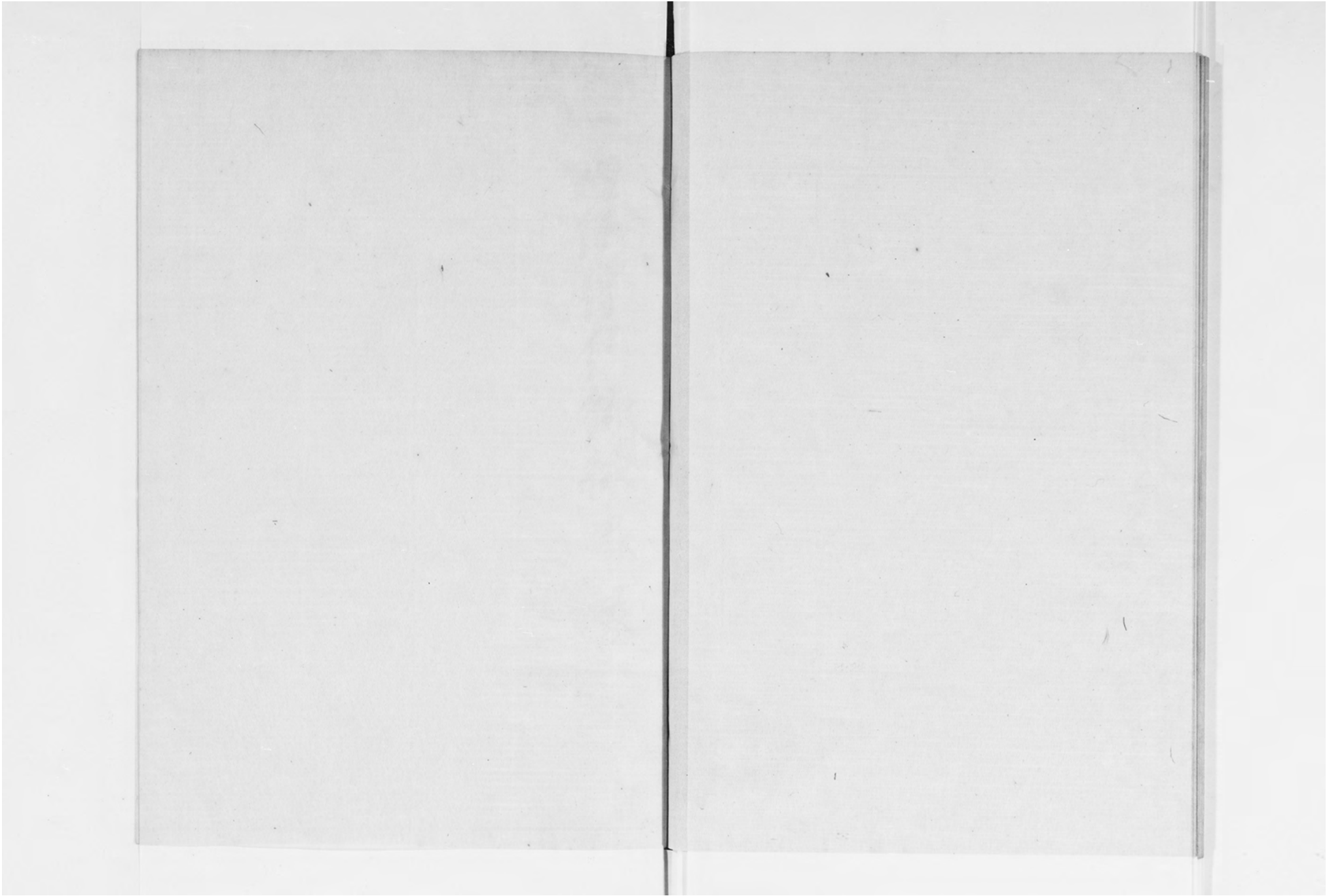
他十卷のナは番と云卷は相除き後
下事にて丹文の佛檀戸棚の出生
る名及小

一 幕或は初、下と用致す一 法事、初ハ
袴羽織等用を也一

一 親有内又ハ主人に仕へる内ハ實體成すの
右仁お、難進ゆ後其自階落成志至
又ハ人、不仕一と一旦ハ進成去其後身
不得成者茂在心ハ動き易者あり
折々善惡迷ひ有故以長心の動き方

子集の要本に傾うする松信牙一の事也





1 百餘年以來其狀

